

100th

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

Philharmony

September 2026
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

6



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自身からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ 設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on
“flash off mode” before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネット アンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへ
アクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、
時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、
物音が出ないように配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど
他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.



発熱等の体調不良時には
ご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻まで
お楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場は
ご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、
咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします
(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance.
(Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているか
ご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



NHK交響楽団
カスタマー・ハラスメントに対する基本方針 (PDF)

PHILHARMONY

CONTENTS

SEPTEMBER 2026

9

- 8 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 17 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 23 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 28 [隔月連載] **検証! ベートーヴェン伝説** | 第1回 |
「ナポレオンの皇帝就任に怒った」のは本当か? かげはら史帆
- 2 NHK交響楽団メンバー
- 32 2026年10月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 34 チケットのご案内 (定期公演2026年9月～2027年6月)
- 35 2026～27定期公演プログラム
- 38 特別公演／各地の公演
- 45 曲目解説執筆者／N響の出演番組
- 46 特別支援・特別協力・賛助会員
- 50 「N響100年」特別賛助会員・個人サポーター
- 52 Information (新入団、訃報)／お詫びと訂正
- 53 みなさまの声をお聞かせください!
- 54 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 55 Program A
- 62 Program B
- 66 Program C
- 69 The Subscription Concerts Program 2026～27
- 72 N響関連のお知らせ
- 73 N響の社会貢献
- 74 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイーヂ
名誉音楽監督:シャルル・デュトワ
桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ
名誉指揮者:バーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太
ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

- 青木 調
飯塚歩夢
○字根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
清水伶香
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
米田有花

* 湯原佑衣

ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小島茂隆
栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
* 和田志織

チェロ

- ◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

- ◎吉田 秀
○市川雅典
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

- ◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

- ◎中村周平
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

- ◎伊藤 圭
◎松本健司
堂面宏起
山根孝司

ファゴット

- ◎宇賀神広宣
◎水谷上総
大内秀介
佐藤由起

森田 格

ホルン

- ◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

◇福川伸陽

トランペット

- ◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

- ◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行

テューバ

池田幸広

ティンパニ

- ◎久保昌一
☆植松 透

打楽器

- 石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

- 沖 あかね
木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。

<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>



(五十音順、◎首席、◇首席客演、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)

Special Thanks

NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT EAST

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

NTT East, Inc.

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

歓びの、すべてが変わる。

THE NEW BMW iX3.



駆けぬける歓び

Photo: THE NEW BMW iX3 50 xDrive M Sport

※写真の車は一部日本仕様とは異なります。※使用している写真は印刷物のため、実際の色合いと異なる場合があります。

※プロダクトに関する詳細はwww.bmw.co.jp、またはBMW正規ディーラーにてご確認ください。※以上の内容は、予告なく変更、終了する場合がございます。
※世界規模の半導体部品供給難等により、一部の標準装備やオプションの設定削除、およびパッケージ・オプションに含まれる装備の変更が発生する場合がございます。最新の装備／設定や価格の詳細につきましては、BMW正規ディーラーまでお問い合わせください。※記載の内容は2026年8月4日現在のものです。

FOR MORE
INFORMATION



世界をつなぐ、あたらしい空へ。





私と、響き合う。

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」

ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。

ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、コンサートホールの空間を満たしていく。

これこそ、ヤマハが追求めてきた瞬間に他なりません。
人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、
ピアニストとともに作りあげていくものだから。

CFX

Yamaha Concert Grand Piano

旬のピアニスト情報が満載

Pianist Lounge.

ヤマハピアニストラウンジ

検索

<https://jp.yamaha.com/sp/pianist-lounge/>

ヤマハ株式会社

ぴあがないと、笑えない。
ぴあがないと、泣けない。
ぴあがないと、踊れない。
ぴあがないと、叫べない。
ぴあがないと、ヘドバンできない。
ぴあがないと、キレーな涙流せない。
ぴあがないと、ドキドキしない。
ぴあがないと、性別なんて越えられない。
ぴあがないと、国境なんて越えられない。
ぴあがないと、年齢なんて越えられない。
ぴあがないと、わたしを越えられない。
ぴあがないと、世界が新しくならない。
ぴあがないと、生き生きできない。
ぴあがないと、遊べない。
ぴあがないと、感じる心、動かない。

Life is Pure.

ぴあがあるから、ひとりひとりが生き生きと。



PROGRAM

A

第2069回

NHKホール

9/12 土 6:00pm

9/13 日 2:00pm

指揮	ファビオ・ルイーシ
ヨハネ(テノール)	ミヒヤエル・ラウレンツ
神の声(バス)	ダーヴィト・シュテフェンス
ソプラノ	迫田美帆
メゾ・ソプラノ	藤井麻美
テノール	伊藤達人
バス	加藤宏隆
オルガン	新山恵理
合唱	新国立劇場合唱団
合唱指揮	富平恭平
コンサートマスター	長原幸太

N響100年特別企画

フランツ・シュミット

オラトリオ「7つの封印の書」(日本語字幕付き) [110']

プロローグ

第1部:最初の6つの封印

第2部:第7の封印

字幕:広瀬大介

字幕操作:Zimaku プラス

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

《7つの封印の書》の関連記事をオンラインでご覧いただけます

N響ホームページ

特集◎フランツ・シュミット
《オトリオ「7つの封印の書」》を読み解く!

フランツ・シュミットはどんな作曲家なのか、
《オトリオ「7つの封印の書」》の魅力とは
——ファビオ・ルイージへのインタビューと
ともにご紹介します。

※『フィルハーモニー』2026年6月号掲載の記事を
再掲載したものです



[https://www.nhkso.or.jp/
news/20260601.html](https://www.nhkso.or.jp/news/20260601.html)

「ぶらあぼ ONLINE」特集サイト

N響&東響《7つの封印の書》
——いま聴くべき“奇跡の競演”

節目のシーズンを迎えた2つのオーケ
ストラが、この9月に《7つの封印の書》
を1週間違いでとりあげます。「ぶらあぼ
ONLINE」ではこの歴史的な機会をと
らえ、両楽団によるスペシャル対談、作
品の魅力や聴きどころなど、多角的な視
点から同作に迫ります。



[https://abravo.jp/special/
featured/schmidt](https://abravo.jp/special/featured/schmidt)

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでア
ンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせてい
ただたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)

Artist Profiles

ファビオ・ルイージ (指揮)



©NHK SO

イタリア・ジェノヴァ出身。2001年にN響と初めて共演し、2022年
9月首席指揮者に就任。就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を、
2023年12月のN響第2000回定期公演でマーラー《一千人の交響
曲》を指揮した。2024年には台湾公演を率い、翌2025年5月にはアム
ステルダム・コンセルトヘボウでの「マーラー・フェスティバル」、「プラハ
の春音楽祭」、「ドレスデン音楽祭」への参加を含むヨーロッパ公演を成
功に導いた。なおN響は「マーラー・フェスティバル」に参加したアジア最初のオーケストラとなり、
《交響曲第3番》《同第4番》の演奏は評論家から称賛を集めた。2028年9月に桂冠名誉指揮
者に就任する。

現在、デンマーク国立交響楽団首席指揮者およびダラス交響楽団音楽監督。またチューリヒ
歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデ
ン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR (中部ドイツ放送) 交響楽団プリンス
パル・コンダクターおよびチーフ・コンダクター、スイス・ロマン管弦楽団芸術監督、ウィーン・ト
ーン・キュンストラ管弦楽団首席指揮者、グラーツ交響楽団首席指揮者などを歴任。このほか、イ
タリアのプーリア州マルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督、トリノを
本拠とするRAI国立交響楽団の名誉指揮者も務めている。また、ベルリン・フィルハーモニー管

弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラなど最高峰のオーケストラ、歌劇場、音楽祭に定期的に客演している。

録音ではデンマーク国立交響楽団との『ニルセン交響曲全集』が2023年にオーストラリアのライムライト賞とイタリアのアッピアーティ賞を受賞し、その第1集は『グラモフォン』誌の年間最優秀録音賞に選ばれた。またメトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のDVDはグラミー賞を受賞した。NHK交響楽団との第2弾のディスク『マーラー：交響曲第5番』は、2026年9月にリリースされる。

彼は優れた作曲家、調音師でもある。

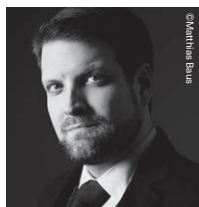
ミヒャエル・ラウレンツ (ヨハネ〔テノール〕)



ドイツ・ハレ生まれ。トランペット奏者としてキャリアをスタートさせ、ベルリン交響楽団の首席奏者を務める。2006年から歌手に転向。チューリヒ歌劇場のオペラ・スタジオで学んだあと、同歌劇場専属歌手として活動。また、2018年から2020年まではウィーン国立歌劇場専属歌手を務めた。これまでに、ベルリン国立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座など世界の名だたる歌劇場に出演してきた。ワーグナー、リヒャルト・シュトラウス、モーツァルトの作品を得意とし、2024-25シーズンのウィーン国立歌劇場《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ではダーヴィトを歌い、オーストリア音楽劇場賞の最優秀助演男優賞を受賞した。また《ニーベルングの指環》全曲初演150年を記念して2026年5月にリリースされたファビオ・ルイー

ジ指揮、ダラス交響楽団による録音ではミーメを歌っている。的確な解釈と高度な表現力を持つキャラクターテノールであり、オラトリオでもドラマティックな表現が期待できる。

ダーヴィト・シュテフェンス (神の声〔バス〕)



ドイツ・バイエルン州生まれ。ザルツブルク・モーツァルテウム大学で学び、2010年にザルツブルク州立歌劇場のモーツァルト《フィガロの結婚》バルトロでデビュー。2012年には、ザルツブルク音楽祭のヤング・シンガーズ・プロジェクト《魔笛》でザラストロを演じた。その後、シュトゥットガルト歌劇場専属歌手として《フィガロの結婚》のフィガロ、《魔笛》のザラストロ、《エフゲニ・オネーギン》のグレーミン公爵などを演じている。

これまでに、ドレスデン国立歌劇場、リヨン国立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパーなどに出演。2018年にはフランツ・ウェルザー・メスト指揮、ロメオ・カステルッチ演出によるリヒャルト・シュトラウス《サロメ》の新制作でザルツブルク音楽祭に正式デビュー。2021年にも同じカステルッチ演出による《ドン・ジョヴァンニ》でマゼットを演じ好評を博した。N響には2023年12月、ファビオ・ルイー

ジ指揮のマーラー《千人の交響曲》で初登場。シュミット作曲《オラトリオ「7つの封印の書」》は、ルイー

迫田美帆 (ソプラノ)



東京藝術大学卒業。2015年にサントリーホール オペラ・アカデミー プリマヴェーラ・コース第2期を最優秀の成績で修了。第13回東京音楽コンクール声楽部門第2位。第50回日伊声楽コンクール、第86回日本音楽コンクール入選。2019年に藤原歌劇団《蝶々夫人》のタイトルロールで鮮烈なデビューを飾る。同年、ベルカントオペラフェスティバル・イン・ジャパン《貞節の勝利》でリッカルドを演じ好評を博す。以後、《フィガロの結婚》伯爵夫人、《コシ・ファン・トゥッテ》フィオルディリージ、《ファウスト》マルガレーテ、《椿姫》ヴィオレッタなどを演じている。近年は活躍の場を広げつつあり、2023年夏にはアメリカ、ジョージア州にて行われたサヴァンナ声楽フェスティバルにて《蝶々夫人》のタイトルロールでアメリカデビューを果たした。また、2024年夏には同役で、兵庫県立芸術文化センターにおける佐渡裕芸術監督プロデュースオペラに出演し絶賛された。N響とは今回が初共演。実力派の若手ソプラノが珍しいシュミット作品にどう取り組むのか、楽しみだ。藤原歌劇団員。

藤井麻美 (メゾ・ソプラノ)



洗足学園音楽大学卒業、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第15期修了。2014年、新国立劇場オペラ研修所プログラムにより、オランダ・アムステルダム歌劇場オペラ研修所にて研修。2016年、文化庁新進芸術家海外派遣制度にてイタリア・ペーザロで研鑽を積む。2017年、第8回B. フランチ国際オペラコンクール特別賞、ベソストリ劇場国際オペラコンクール特別賞を受賞。リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクール2017入選。その後、イタリア各地でオペラやコンサートに出演する。帰国後は《ヘンゼルとグレーテル》、《ルチア〜あるいはある花嫁の悲劇〜》、開場60周年記念公演《マクベス》などで立て続けに出演。2019年には宮本亞門演出《蝶々夫人》でスズキに抜擢されて東京二期会にデビュー。近年では、いずれもワールドプレミアとなった2024年のペーター・コンヴィチチュニ演出《影のない女》、2025年のイリーナ・ブルック演出《カルメン》のほか、2024年のクリスティアン・アルミンク指揮、ロラン・ペリー演出による東京二期会《コシ・ファン・トゥッテ》ドラベッラ、2026年のBunkamura Produce 鈴木優人&BCJ《フィガロの結婚》マルチェリーナなど、話題作に出演している。癖のない伸びやかな美声と確かなテクニックが持ち味のメゾ・ソプラノの本領発揮となりそう。二期会会員。

伊藤達人(テノール)



東京藝術大学卒業、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第14期修了。2016年、文化庁新進芸術家海外研修員としてベルリンに留学し、研鑽^{けんさん}を積む。同年、シモーネ・ヤング指揮、カロリーネ・グルーバー演出によるリヒャルト・シュトラウス《ナクソス島のアリアドネ》ブリゲッラで東京二期会にデビューし、新進気鋭の若手テノールとして注目を集める。2022年にはセバスティアン・ヴァイグレ指揮、宮本亜門演出の《パルシファル》でタイトルロールを演じて好評を博す。近年では、2024年のペーター・コンヴィチュニ演出《影のない女》の皇帝、2025年ロッセ・デ・ベア演出《くるみ割り人形とイオランタ》のヴォデモン伯爵など、二期会きってのテノールとしての地位を確立している。また、新国立劇場への出演も多く、2025年は《さまよえるオランダ人》のかじ取りのほか、リチャード・ジョーンズ演出による新制作の《ヴォツェック》でアンドレスを演じた。リリックな美声とドイツ語の確かなディクションが特徴で、本作でもその長所を発揮してくれるにちがいない。二期会会員。

加藤宏隆(バス)



東京藝術大学卒業後、渡米。ジョーンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院修士課程とインディアナ大学ジェイコブズ音楽院ディプロマ課程を修了。フィレンツェでも研鑽^{けんさん}を積む。アメリカでは《愛の妙薬》ドゥルカマーラ、《セビリアの理髪師》バジーリオなど数多くの公演に出演。また2年続けてアスペン音楽祭に参加し、プリテン《夏の夜の夢》でシーアスを演じて好評を博している。帰国後は2014年にガブリエレ・フェーロ指揮、デーヴィッド・マクヴィカー演出の《ドン・カルロ》の大審問官役で東京二期会にデビュー。その後、2018年ペーター・コンヴィチュニ演出《魔弾の射手》のカスパール、2022年セバスティアン・ヴァイグレ指揮、宮本亜門演出《パルシファル》のグルネマンツなどを演じている。オペラの他には、バッハ・コレギウム・ジャパン声楽メンバーを務め、ヘンデル《メサイア》、モーツァルト《レクイエム》、バッハ《マタイ受難曲》などに出演しており、宗教作品に対する造詣は深い。深く奥行きのある歌声は本作の持つ深遠な世界観との相性抜群。二期会会員。

新山恵理 (オルガン)



東京藝術大学音楽学部オルガン学科卒業、同大学院音楽研究科修了。フランス・リール国立地方音楽院で学び、満場一致の一等賞を得て首席で卒業する。その後、ベルギー、スペイン、南フランスなどのアカデミーで研鑽^{けんさん}を積む。各地にある歴史的な楽器を使用してのコンサートに多数出演して好評を博し、18世紀に建造された楽器の修復記念演奏会にも招待されている。第3回日本オルガンコンクール第2位。1993年より東京芸術劇場副オルガニストを務めてきたが、2023年に退任。現在はソロの演奏家として活躍するかたわら、アクトシティ浜松のオルガニストとしてコンサートやレクチャーにも取り組んでいる。また、各地のオーケストラや合唱団、アンサンブルとの共演にも力を入れている。NHK-FM『あさのバロック』、NHK『名曲アルバム』のほか、『深夜の音楽会』など、放送への出演も多い。第1部と第2部に登場するオルガン・ソロは、シュミット自身オルガニストだったこともあり本作の聴きどころのひとつ。一般社団法人日本オルガニスト協会会員。

新国立劇場合唱団 (合唱)

1997年10月に開場した新国立劇場専属の合唱団として、1998年4月より活動をスタート。厳正なオーディションによる審査を経て合格したメンバーは、現在、男女合わせて100名を超える。メンバー個人の歌唱力や表現力の高さはもとより、アンサンブルの美しさと迫力は折り紙付きで、新国立劇場で上演される多彩なオペラ作品によって磨き上げられた実力は、多くの出演者、指揮者、演出家から高い評価を受けている。またオペラ公演だけでなく、オーケストラの演奏会への出演も多い。これまでに読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団など日本国内のオーケストラ、マリス・ヤンソンス指揮ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、フランツ・ウェルザー・メスト指揮クリーヴランド管弦楽団など海外オーケストラとも共演。N響とはこれまでに20回を超える演奏会で共演しており、相性の良さも抜群である。本公演では冨平恭平が合唱指揮を務める。

[室田尚子／音楽評論家] (ソリスト、合唱プロフィール)

ファビオ・ルイージが「20世紀で最も重要なオラトリオ」と称するフランツ・シュミット（1874～1939）の超大作にして代表作である《7つの封印の書》が、N響によって初めて演奏される。紀元1世紀に成立した『ヨハネの黙示録』を題材に、戦争や飢餓、疫病や天災と、そこからの解放を劇的かつ鮮明に描くこの作品は、現代の私たちに何を問いかけるだろうか。

フランツ・シュミット

オラトリオ「7つの封印の書」

シュミット最晩年のオラトリオ《7つの封印の書》は、新約聖書の最後に置かれた『ヨハネの黙示録』を題材に作曲された。ヨハネによる語りという枠組みのなかで、人類の歴史の預言（第1部）と、最後の審判および世界の転換（第2部）が、神の声、4人のソリスト、合唱、オーケストラ、そしてオルガンによって描写される（スコアではバスのソリストが神の声を歌うよう指示されており、初演でもバスのソリストが兼任した。近年では、今回の上演のように、神の声とバスのソリストを別々の歌手が担うことが多い）。

20世紀初頭のオーストリアを代表する作曲家であり教育者のフランツ・シュミットは、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のチェロ奏者を務めたのち、ウィーン音楽アカデミー（現ウィーン国立音楽大学）の教授として、チェロ、ピアノ、対位法および作曲の指導にあたった。弟子のひとり、ライムント・ワイセンシュタイナーは、のちのインタビューで、自身が《7つの封印の書》の題材探しを手伝った経緯を語っている。

それによれば、ローマ・カトリック教会の神父でもあったワイセンシュタイナーは、合唱またはソリストを伴う大規模な作品の題材についてシュミットから助言を求められ、『ヨハネの黙示録』を提案したという。一読したシュミットはすぐに気に入り、ワイセンシュタイナーから7種類のドイツ語訳を受け取った。最終的には、すでに所有していたルターの古い訳を軸に、一部新しい訳を取り入れた。

初演にあたってシュミットが綴った『《オラトリオ「7つの封印の書」》の台本に関する所見』には、「上述した省略[プロローグにおける省略]を除き、私は原文に忠実に従い、この作品に対して、深く信仰心に満ちた人間および芸術家という立場からのみ向き合った」と書かれている。とはいえ、実際には彼は、原文の順序を入れ替えたり、内容の重複を避けたりしたのみならず、いくつかの部分を削ったり、自ら台本を書き加えたりもした。なかでも、とりわけ劇的な戦争の場面（第2、第3、第4の封印が解かれる場面）には多くの加筆がされている。

作品は、プロローグ、第1部、第2部の全3部からなる。天上のプロローグは、ヨハネ

の挨拶にはじまり、神によるヨハネの召命^{しょうめい}、玉座の前へのヨハネの登場、神を讃^{たた}える顕彰式へと続く。コントラバス、そしてファゴットが奏する「書の主題」は神の持つ7つの封印のある書を、牧歌的なオーボエの旋律「子羊の主題」は子羊がその書を受け取ったことを表す。短い感謝の礼拝によってプロローグは締めくくられる。

第1部と第2部は、それぞれオルガンの独奏ではじまる。第1部では、「書の主題」を変容したオルガン独奏のあと、第1の封印が子羊によって解かれて白い馬に乗る者（キリスト）が登場し、キリストの教えが広まる。第2の封印では赤い馬が現れて戦争が起こり、第3、第4の封印では黒い馬と青ざめた馬が飢餓（母と娘、ソプラノとアルトの二重唱）と疫病（2人の生存者、テノールとバスの二重唱）をもたらす。第5の封印が解かれると死者の魂の叫びが聞こえ、神の声がそれを鎮める。第6の封印が解かれると天災が起き、寄せては返すような音型の「水のフーガ」によって世界の終わりが描かれる。

第2部冒頭のオルガン独奏は「水のフーガ」の再現である。第7の封印が解かれると天上は沈黙に包まれ、ヨハネが信仰と教会の歴史を語る。7人の天使たちがラッパを吹くと地上に次々と災いが起こり、それは長大な四重フーガとなる。最後の審判により世界の転換が訪れ、神が救いと恵みを宣言する。続くハレルヤは、シュミットが1928年に作曲したオルガンのための《4つのプレリュードとフーガ》の第4曲のプレリュードを引用している。グレゴリオ聖歌風の感謝の言葉と、プロローグ冒頭と同様の旋律によるヨハネの挨拶で幕となる。

シュミットが闘病しながら約2年間取り掛かったこのオラトリオは、1937年2月23日にウィーン近郊ペルヒトルツドルフの自宅で完成した。初演は当初1938年4月に予定されていたものの、3月にオーストリアがナチス・ドイツに併合されたことによる混乱のため、6月に延期された。作品は創設125年を迎えたウィーン楽友協会に献呈されている。

作曲年代	1935～1937年
初演	1938年6月15日、オスヴァルト・カバスタ指揮、ウィーン交響楽団、ウィーン楽友協会
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3（Dクラリネット1、バス・クラリネット1）、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ（最大3人で演奏）、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、銅鑼、シロフォン、オルガン、弦楽、独唱（ソプラノ1、メゾ・ソプラノ1、テノール2、バス2）、合唱

知られざる作曲家フランツ・シュミットと 壮大な祈りの音楽・オラトリオ

フランツ・シュミットは、20世紀初めウィーンで活躍した作曲家です。代表作に《歌劇「ノートルダム」》や4曲の交響曲があります。《オラトリオ「7つの封印の書」》は彼の晩年の作品。オラトリオとは、宗教的な題材による大規模な楽曲のことです。オーケストラ・独唱・合唱がオペラのように物語を進行してゆきますが、演技をすることはありません。〈ハレルヤ・コーラス〉でおなじみのヘンデルの《メサイア》や、ハイドンの《天地創造》などが有名ですが、《7つの封印の書》も劇的かつ深い祈りに満ちた音楽で、オラトリオの歴史にその名を刻む名作です。

A

2026 SEPTEMBER
[第2069回]



『ヨハネの黙示録』を題材に、
病苦と向き合いながら書き上げた《7つの封印の書》。
封印された7つの巻物が次々と解かれていく

©IKE

B

第2070回

サントリーホール

9/17 木 7:00pm

9/18 金 7:00pm

指揮

ファビオ・ルイーシ | プロフィールはp.9

ヴァイオリン

アウグスティン・ハーデリヒ

コンサートマスター

郷古 廉

ウェーバー

歌劇「オペロン」序曲 [10']

ブラームス

ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77
[40']

I アレグロ・ノン・トロツポ

II アダージョ

III アレグロ・ジョコーソ、
マ・ノン・トロツポ・ヴィヴァーチェ

—— 休憩 (20分) ——

シューマン

交響曲 第4番 二短調

作品120(改訂版) [28']

I かなりゆっくりと—生き生きと

II ロマンズ:かなりゆっくりと

III スケルツォ:生き生きと

IV ゆっくりと—生き生きと

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

B

アウグスティン・ハーデリヒ (ヴァイオリン)



ヴァイオリン界もいまや国際的で、出身国や「流派」に特別な意味を求めることはできない。アウグスティン・ハーデリヒの場合が、まさにそう。音楽を能くするドイツ人の両親のもと、イタリアで生まれ、5歳でこの楽器を始めた。クリストフ・ポップン、ウート・ウーギらに学び、同国のマスカーニ音楽院を卒業後は、20歳で渡米。ジュリアード音楽院でジョエル・スミルノフのもとで研鑽をつんだ。ドイツと米国の二重国籍をもち、現在も米国を拠点にしている。晩年のユーディ・メニューインも認めた「神童」としてスタートし、現在、バッハからジョン・アダムズまで、きわめて幅広いレパートリーをもつ。2006年、インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクールでの優勝がキャリアの突破口となった。欧米の楽団をはじめ、有名オーケストラとの共演は枚挙に暇がない。NHK交響楽団とは直近で2024年に共演している。作品ごとに異なる様式を尊重するが、つねに水際立った技術で豊かな響き、多彩な音色、熱い歌を聴かせる。現在の愛器は、ヘンリク・シェリング由来の1744年製ガルネリ・デル・ジェス「ルデュック」。

[船木篤也／音楽評論家]

Program Notes | 安田和信

本プログラムではいわゆる「ドイツ・ロマン派」に属す3人の作曲家が取り上げられる。最も古い世代のウェーバーはベートーヴェンの時代を生きたが、この「巨人」を意識しないで創作することはすでに不可能であっただろう。いわんや、シューマン、ブラームスにおいてをや。彼らは「巨人」の足跡と自らのそれが比較されることを覚悟しつつ、個性的、独創的たらんと奮闘してきた。その奮闘はもちろん彼らの天才によって大きな花を咲かせたのである。

ウェーバー

歌劇「オベロン」序曲

《オベロン》はカール・マリア・フォン・ウェーバー(1786～1826)の、結果的に最後となった歌劇。1824年の夏、ロンドンのコヴェントガーデン劇場からの依頼を受け、翌年から作曲にとりかかった。彼にとって英語台本への作曲は不慣れだったが、病魔と戦いながら仕事に追われていた身でも英語の特訓をして創作に勤しんだ。ロンドン初演は成功を収めたが、その数か月後、作曲者はこの世を去っている。

ドイツ古典主義の作家クリストフ・マルティン・ヴィーラントの原作はシェークスピアの『夏

の夜の夢』などに基づく(英語台本はジェームズ・ロビンソン・ブランシェ)。妖精の王オベロンは男女のどちらが浮気者かという問題で妻のティタニアと喧嘩となるが、王の従者が見出してきた騎士ヒュオンとその恋人レジアが困難を乗り越えて結ばれることでオベロンたちは仲直りをする、という物語である。序曲は二長調、導入部付き(4/4拍子、アダージョ・ソステヌート)のソナタ形式によるが、オペラ本体からの引用が散りばめられている。例えば物語の舞台である中世の異国へ誘うような冒頭のホルンは歌劇の中で魔法の角笛を象徴する音型。導入部の音楽も活用される主部(4/4拍子、アレグロ・コン・フォーコ)は細やかに上行する動機を中心とした主要主題と、静謐なカンタービレから躍動的な旋律へ切り替わる副次主題を軸に展開する。短縮された再現部では副次主題の躍動的な後半がクローズアップされ、大団円を迎える。

作曲年代	1825年1月23日～1826年4月11日。ドレスデンおよびロンドン
初演	1826年4月12日、ロンドン・コヴェントガーデン劇場
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽

ブラームス

ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

オーストリア中南部の湖ヴェルターゼー北岸の避暑地ペルチャッハ。ヨハネス・ブラームス(1833～1897)は1878年の夏、この地で初めてヴァイオリン協奏曲の構想を持ったことを、友人のヴァイオリン奏者ヨーゼフ・ヨアヒムに宛てた書簡で打ち明けたが、クララ・シューマンは、ブラームスとヨアヒムがその年の9月末にハンプルクで第1楽章を演奏したのをすでに目撃している。その後、4楽章構成という当初の構成を放棄した上で、年末に両者は初演に向けたリハーサルを重ねた。翌年の元日に行われた初演以降、1879年10月の初版出版まで改訂を続けている。初演以来、現在に至るまでレパートリーとして生き残り続ける類まれなヴァイオリン協奏曲のひとつとなったのである。

先述したように、ブラームスは最終的に協奏曲の伝統を守り、3楽章構成とした。初演者ヨアヒムはブラームスに献呈した自身の《ヴァイオリン協奏曲第2番ニ短調》作品11(1861年初版)の冒頭に、こちらも伝統に従って管弦楽のみの提示部を置いたが、ブラームスの第1楽章(3/4拍子、アレグロ・ノン・トロポ)も同様である。しかし、落ち着いた性格の主要主題に始まった提示部には暗雲が立ち込め、ニ短調の奈落へ落とされ、そのまま独奏ヴァイオリンの登場へ移行するプロセスは斬新としか言いようがない。紆余曲折はあれど、ニ長調の大団円を迎えた第1楽章のあと、第2楽章(2/4拍子、アダージョ)は2声のファゴットによる「ファとラ」の響きで始まるため、「レファラ」を主和音とするニ短調の楽

章と錯覚させるが、すぐにホルンが「ド」を響かせ、「ファラド」を主和音とするへ長調という、ニ長調からは遠い世界におけるカンタービレへ。**第3楽章**(2/4拍子、アレグロ・ジョコーソ、マ・ノン・トロppo・ヴィヴァーチェ)はロンド形式に基づく楽章。独奏ヴァイオリンを主役に据えて始まる主要主題は、第1楽章の冒頭と同様にニ長調主和音の「レファ#ラ」に混じって「シ」も現れるため、両楽章間の関連性を強く示唆するだろう。

作曲年代	1878年8月～12月(初版出版のために1879年6月まで改訂)
初演	1879年1月1日、ライプツィヒ、ゲヴァントハウス、J. ヨアヒム独奏、作曲家自身の指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

シューマン

交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版)

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン以降のドイツ語圏の作曲家として、ローベルト・シューマン(1810～1856)も交響曲創作に強い意欲を示し、1830年頃からスケッチなどを試みている。しかしのちのブラームスほどではないにせよ、なかなか完成・発表には至らなかった。作品37までの出版作品はピアノ曲か歌曲にとどまっていたが、最初の成果は1841年に突然示される。いずれもライプツィヒで初演された《第1番変ロ長調「春」》作品38(3月31日)、《序曲、スケルツォとフィナーレ》作品52(12月6日)、当初は「第2番」とされた《第4番ニ短調》(12月6日)である。《ニ短調》のみ出版は果たされず、10年後の1851年末になって改訂が行われることになった。全楽章が途切れることなく続く楽章構成を採る点や、主要な素材などは温存されたとはいえ、軽微とはいえない改訂であった。この改訂は必ずしも自発的に行ったわけではなかったようだ。デュッセルドルフの管弦楽団の不十分さに意気消沈してオーケストレーションをやり直したという、ブラームスの証言もある(1886年)。しかしながら、妻クララは1891年になって、亡き夫が初稿に満足せずに改訂を施したと述べた。そのためか、1841年稿より「改訂版」が長らく親しまれてきているのである。

各楽章はベートーヴェン以来の交響曲の形式に変形を加えている点が注目される(一時期、この作品を「交響的幻想曲」と名付けた^{ゆえん}所^{ゆえん}だろうか)。**第1楽章**の緩徐導入部はハンマーのような一撃に続く、下行と上行を続ける動機が現れるが、これは他の楽章でも活用される。導入部で予告された主部主要主題は非常に活発な動きを持つ。しかしこの楽章はソナタ形式とみなすには再現部が不完全なまま終結してしまう。**第2楽章**は哀愁を帯びた短調の主部と、独奏ヴァイオリンが活躍する長調の中間部が対比的な3部形式楽章。両者とも「上下行動機」が活用される。スケルツォの**第3楽章**はこの表題から予期

される「A—B—A」の3部形式でなく「A—B—A—B」に変形される。Bは第2楽章中間部をあからさまに利用したものだが、情熱的な主部も「上下行動機」が実は反映している。第4楽章はニ短調からニ長調への最終的な変換が果たされたのち、勝利の凱歌^{がいか}のような主部へ。3つの主題的素材のうち、主要主題は第1楽章のそれが活用される一方で、その再現が果たされないだけでなく展開部と再現部の切れ目が明確でない点はやはりソナタ形式の変形と認められるだろう。終結部分では二段階の加速で絶頂のままに閉じられる。

作曲年代	1841年5月29日～9月9日、ライプツィヒ [改訂版] 1851年12月12～19日、デュッセルドルフ
初演	[初稿] 1841年12月6日、ライプツィヒ、ゲヴァントハウス、F. ダーヴィト指揮 [改訂版] 1853年3月3日、デュッセルドルフ、ガイスラー・ザール、作曲者自身の指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽

カール・マリア・フォン・ウェーバー



©IKE

人間と妖精の物語から
ロマンティックな歌劇を書いたウェーバー。
初演を成功させた数か月後にこの世を去った

ウェーバーは、子どものころ父親の劇団の巡業についてドイツ、オーストリアの各地を回り、作曲家になってからはプラハやドレスデンの歌劇場で指揮者としても活躍するなど、劇場と深く関わりました。オペラと言えば「イタリア語のオペラ」が主流だった時代に、ドイツ生まれのウェーバーはドイツ語による傑作オペラ《魔弾の射手》を残し、次の世代のワーグナーに大きな影響を与えています。《歌劇「オベロン」》はウェーバー最後の作品。〈序曲〉には劇中のメロディも登場します。重い病をおして自ら《オベロン》の初演を指揮したのち、彼は39歳の若さで亡くなっています。

C

第2071回

NHKホール

9/25 金 7:00pm

9/26 土 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイーシ | プロフィールはp.9

コンサートマスター

長原幸太

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1

ベートーヴェン

交響曲 第1番 ハ長調 作品21[28']

- I アダージョ・モルトーアレグロ・コン・ブリオ
- II アンダンテ・カンタービレ・コン・モート
- III メヌエット:アレグロ・モルト・エ・ヴィヴァーチェ
- IV 終曲:アダージョー
アレグロ・モルト・エ・ヴィヴァーチェ

——休憩(20分)——

ベートーヴェン

交響曲 第3番 変ホ長調

作品55「英雄」[50']

- I アレグロ・コン・ブリオ
- II 葬送行進曲:アダージョ・アッサイ
- III スケルツォ:アレグロ・ヴィヴァーチェトリオ
- IV 終曲:アレグロ・モルト

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

N響創立100年を記念するシリーズが始動する。大正時代に走り出してから、楽団の骨格をつちかってきた特別な存在がベートーヴェンだ。その記念すべき幕開けは《第1番》と《第3番「英雄」》。管楽器の新しい使い方で当時の耳を驚かせた初期作から、音楽史に革命をもたらした大作へ。現在のルイージ×N響をとおし、「いま」「100年前」「200年前」を横断してみよう。

ベートーヴェン

交響曲 第1番 ハ長調 作品21

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770～1827)が初の交響曲を完成させ、初演したのは29歳のとき。残されている史料は少ないものの、スケッチなどをたどると、彼が交響曲というジャンルに乗り出そうとした跡は1795年にさかのぼる。「初めての交響曲」を前に、5年あまり試行錯誤を重ねていたことはまちがいない。

1800年4月、自身の企画による公開演奏会「アカデミー」で披露された本作を、当時の人々はどう受けとめたのか。半年後の10月15日に発刊された音楽雑誌『総合音楽新聞』の評論は、興奮と戸惑いを伝える。「技巧、新しさ、着想の豊かさに満ちている」と評価する一方で、こう釘を刺す——「ただ、管楽器が多^{おほ}用されすぎていて、本来のオーケストラ音楽というよりはハルモニウムジーク(管楽合奏)のようであった」と。2本のクラリネットを含む二管編成が標準となった現代の私たちの耳からすれば、当時の耳が受けた衝撃を物語る貴重な証言だ。

ここでいう「管楽器の多用」とは、たんに演奏時間の長さという「量」の問題にとどまらない。重要なメロディやリズムの核を担い、弦楽器とたくみに協働するという「質」の点でも、管楽器(そしてティンパニ)に注目してほしい。たとえば第1楽章の展開部の終わりでは、管楽器と弦楽器が、異なるモチーフでかけ合う箇所があり、対等な対話を感じさせる。

ちなみに、この日のアカデミーのほかのプログラムは次のとおり。モーツァルトの大交響曲、ハイドンの《オラトリオ「天地創造」》からの抜粋、ベートーヴェンのピアノ協奏曲と《七重奏曲》(作品20)と即興演奏が並んだ。どの楽曲かを正確に記さないうに色んなジャンルが混ざったこの「ごたまぜ」プログラムも、現代の演奏会文化とはちがって面白い。評判がもっともよかったのは《七重奏曲》だったようだ。

当時は新鮮だった響きも、後世の耳にはそうではないこともある。たとえば30歳以上離れたベルリオーズにとって、この《第1番》は保守的に感じられた。中期以降のベートーヴェンがみせた実験精神に比べれば、豊かな着想を認めつつも本作に物足りなさを覚えている。

1800年の初演から226年を経た2026年に、19世紀の扉をおしあけたこの交響曲を聴くこと。私たちの耳が、200年前の響きを「いま」へと呼び覚ます媒体となる。

第1楽章 アダージョ・モルト、ハ長調、4分の4拍子—アレグロ・コン・ブリオ、2分の2拍子。ソナタ形式。

第2楽章 アンダンテ・カンタービレ・コン・モート、ヘ長調、8分の3拍子。ソナタ形式。

第3楽章 メヌエツト：アレグロ・モルト・エ・ヴィヴァーチェ、ハ長調、4分の3拍子。3部形式。

第4楽章 終曲：アダージョ、ハ長調、4分の2拍子—アレグロ・モルト・エ・ヴィヴァーチェ、4分の2拍子。ソナタ形式。

作曲年代	1799～1800年
初演	1800年4月2日、ウィーンの宮廷劇場
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽

ベートーヴェン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

《第1番》は演奏会（アカデミー）のラストに初演された。いっぽう、この《第3番》についてベートーヴェンは、1806年10月に美術工芸社から出版された初版パート譜の序文で次のように述べている——「この交響曲は通常よりもあえて長く書かれているため、アカデミーの終わりよりもはじめに近いところで、序曲やアリア、あるいは協奏曲のすぐあとに演奏されなければならない。なぜなら、プログラムのあまりあとのほうで聴かれると、前の演目によってすでに疲れている聴衆にとって、この曲ならではの意図された効果を失ってしまうからだ」。たしかに《第1番》の第1楽章がおよそ300小節であるのに対し、《第3番》の第1楽章は700小節近くに達しており、交響曲がいかにもそれまでとは異なる聴き方を求めるジャンルへと変化したかがわかる。

ふたたびベルリオズの言を借りると、「私はこのようなスタイルの音楽、これほど純粋で高貴な表現でもって一貫して悲嘆が伝えられている例をほとんど知らない」と感嘆している。感情表出の点でも新局面を切り拓いたといえる。

初演当時の耳はもっと驚いたようだ。第1楽章で再現部に入る直前、ホルンが先走って主題を再現しているように聴こえる箇所がある（第394小節）。初演リハーサル時、これを奏者のミスだと勘違いした弟子フェルディナント・リースは、「ひどいホルン奏者だ！ 小節を数えられないのか」と叫び、ベートーヴェンの怒りを買ったという。身近な人間でさえ、不協和音や予期せぬ展開をしかける作曲者の意図はなかなか見抜けなかった。

初版パート譜の表紙に記された「英雄的交響曲 ある偉大な人物〔un grand Uomo〕

の思い出を記念して作曲された」という題字からは、「ある」という不定冠詞を用いることで個人の特定を避ける意図が読みとれる。皇帝として戴冠する前のナポレオンを指すとか、ベートーヴェンが愛してやまない古代ギリシア・ローマにさかのぼる「英雄的なもの」というイメージを指すとか、さまざまな仮説が示されてきた。

ここにもうひとり、英雄の名を加えておこう。終楽章は、ソプラノ主題とバス主題の2つが変奏される凝った形式をとる。この主題は、《バレエ音楽「プロメテウスの創造物」》(作品43)の最終曲に由来する。プロメテウスは、天から火を盗んで人間に文明をもたらした代わりに神の拷問に耐えた古代ギリシアの犠牲的な英雄だ。1802年のピアノ曲《15の変奏曲とフーガ》(作品35)でもこの主題を用いていることから、プロメテウスは作曲者をはじめ当時の人々にとって革命的なイメージを担っていたのだろう。

- 第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ、変ホ長調、4分の3拍子。ソナタ形式。
- 第2楽章 葬送行進曲：アダージョ・アッサイ、ハ短調、4分の2拍子。自由な3部形式。
- 第3楽章 スケルツォ：アレグロ・ヴィヴァーチェートリオ、変ホ長調、4分の3拍子。3部形式。
- 第4楽章 終曲：アレグロ・モルト、変ホ長調、4分の2拍子。自由な変奏曲形式。

作曲年代	1803年～1804年初頭
初演	1805年4月7日、アン・デア・ウィーン劇場
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、ティンパニ、弦楽

C
2026 SEPTEMBER
[第2071回]

「楽聖」ベートーヴェンのこだわり

引越し

ドイツ北西部の古都ボンに生まれ育ったベートーヴェンは、22歳の年、大きな志を抱いてウィーンに移り住みます。以後、56歳で亡くなるまで、この音楽の都で創作活動を続けました。その間、彼は次々と引越しを繰り返します。まさに引越し魔。その回数は79回とも言われています。引越しの理由は、彼が真夜中でもお構いなしにピアノを弾くなど、隣近所とのトラブルもありましたが、「環境を変えたい」ということもあったようです。引越し先で気分を一新して作曲に取り組む。引越しはベートーヴェンが傑作を生み出す原動力になっていたのかもしれません。



生涯一度も自分の家を持たなかった
引越し魔のベートーヴェン。
ウィーンに移り住んでからは、
生涯のほとんどを
ウィーンとその近郊で過ごした

2027年に没後200年を迎えるルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン。アニバーサリーイヤーに向けて、『ベートーヴェン捏造』などの著書で知られるかげはら史帆さんによる隔月連載が始動！「楽聖」をめぐるさまざまな伝説を「検証」しながら、その実像に迫ります。第1回は、『交響曲第3番』にまつわるあの有名な逸話を取り上げます。

検証！ ベートーヴェン 伝説

隔月連載

史帆
かげはら

Beethoven
— the truth behind the legends
Shiho Kagehara

「ナポレオンの皇帝就任に怒った」のは本当か？

嘘をついたのは、
秘書シンドラーだけではない

ベートーヴェンをめぐる逸話は嘘だらけ——。そんな話を最近よく耳にする。とりわけ槍玉に上がるのが、ベートーヴェンの秘書アントン・フェリックス・シンドラーが起こした、会話帳（筆談用ノート）の改竄事件である（ご興味がある方は、拙著『ベートーヴェン捏造——名プロデューサーは嘘をつく』をお読みいただきたい）。

だが、嘘をついたと疑われているのは、実はシンドラーひとりだけではない。たとえば、フェルディナント・リースという人物がいる。シンドラーとは対照的に「信頼の置けるベートーヴェンの愛弟子」と評価されてきたこの人物の証言にも、近年、数々の嫌疑がかけられている。

一例を挙げよう。「尊敬するナポレオン・ボナパルトに《交響曲第3番》を捧げようとしたが、彼の皇帝就任のニュースに激怒し、楽譜の表紙の献辞を引き裂いた」

という逸話がある。実はこの有名なエピソードの証人は、自称・目撃者であるリースただひとりしかない。

「(筆者注：《交響曲第3番》)の表紙の1番上には「ボナバルト」、1番下には「ルイジ・ヴァン・ベートーヴェン」と書かれているのみだった。ボナバルトが皇帝就任を宣言したというニュースをベートーヴェンに最初に知らせたのは僕だった。これを聞いた彼は怒って叫んだ。「あの男とて、しよせんはありきたりの人間にすぎない! あらゆる人権を踏みにじり、自分の野望のとりことなって、己を最上位に置くような専制君主となる!」ベートーヴェンは机に歩み寄り、表紙をわしづかみにして完全に引き裂いて、床に投げ捨てた。1ページ目は書き直され、この交響曲の表題は《シンフォニア・エロイカ》だけとなった」(リース『伝記的覚書』、1838年)

リースに対して批判的な立場であったシンドラーも、このエピソードについては否定をせず、自身の著作のなかで「モーリッツ・フォン・リヒノフスキー伯爵からも同じ話を聞いた」という真偽不明の補完を行っている。理想化されたベートーヴェン像を世に広めるという使命感を抱いていたシンドラーは、「権力に楯突く崇高な楽聖像」を具現化したようなこの逸話を気に入ったのだろう。その後、多くの伝記作家がシンドラーに追随し、このエピソードは世に広く知られるに至った。

ベートーヴェンの「怒り」は 弟子リースの「怒り」だった?

しかしこのリースの証言には、明らかに事実とは異なる箇所がある。それが「(表紙を)完全に引き裂いて」というくだりだ。この作品の浄書ス



《交響曲第3番変ホ長調》(作品55)浄書スコアの表紙

コアの表紙を見ると、たしかに写譜師が書いた「ボナパルト」の部分に穴が開いているが、ナイフで削り取ったようなごく小さな痕であり、「完全に引き裂い」た状態ではない。となると、その前段の「(皇帝就任のニュースを知って) 怒って叫んだ」というくだりも、真実かどうか疑わしくなってくる。

状況を整理しよう。まず、『交響曲第3番』が作曲されたのは1803年から1804年。そして、当初ベートーヴェンがこの作品をナポレオンに捧げようと考えていたのは事実である。「この交響曲のタイトルはもともとボナパルトであり」(1804年8月26日付)と、彼自身が出版社宛の手紙に書いている。また、その献呈計画を撤回したのも事実である。最終的にこの作品は、ウィーン在住のパトロンであるロブコヴィッツ侯爵に献呈されている。疑うべきは、かように献呈先を変えた動機が本当に「怒り」だったのかどうか、という点である。

音楽学者のメイナード・ソロモンは、ベートーヴェンの献呈撤回の動機を「フランス移住説」に見いだしている。当時のベートーヴェンは、神聖ローマ国内での音楽活動に嫌気が差し、ひそかにフランスへの移住願望を抱いていた。そこで手土産として大規模な交響曲をナポレオンに捧げようと思いつく。しかし移住計画自体が頓挫したため、献呈先をウィーンのパトロンにした——これがソロモンの説である。

同様に「フランス移住説」を支持する音楽学者の大崎滋生は、「怒り説」に対してこんな疑問を呈している。「そもそも、1804年当時、「野望のとりこになって」「専制君主となる」というような認識の思考回路があったのだろうか。それはリースが書いた1830年代のものではないか」——つまりナポレオン(あるいはフランスそのもの)に嫌悪感を持っていたのはベートーヴェンではなく、この証言を『伝記的覚書』に書き留めた頃のリース自身だったのではないかと、大崎は分析しているのだ。

「怒り」が嘘ではない可能性を探る

しかし、フランス移住説が仮に正しいとしても、献呈撤回の理由から「怒り」を排除していいのだろうか。むしろナポレオンに怒りを抱いたからこそ移住計画と献呈を撤回した、という可能性も考えられるのではないだろうか。

リースの証言は、1830年代の彼自身の反フランス感情の投影である——。筆者はこの仮説に対して異を唱えたい。なぜなら、『伝記的覚書』を書く目前(1836～1837年)、リースはパリに数か月間滞在しており、自作曲《祝典序曲と勝利の行進曲》をヒットさせ、コンセルヴァトワールでも交響曲を演奏し、パリの街を気に入って「まるで楽園だ」とさえ言っているからだ。当時のリースからは、反フランス感情の気配はまったく感じられない。

また1804年当時、ベートーヴェンの生まれ故郷のボンがフランス領だったのも見逃せない事実だろう。郷土愛の強かった彼が、権力者の「皇帝就任」を我が事のように考えて憤るのは、決しておかしいことではない。

さらに、弟子のカール・チェルニーが残した以下の証言も注目に値する。「1824年のある日、ベートーヴェンと私はバーデンでお茶を飲みに出かけた。テーブルに何種類かの新聞が放り出しており、そのなかにワルター・スコット著『ナポレオンの生涯』の広告があったので見せると、彼はこう言った。「ナポレオンか! 昔は好かなかったが、いまは全くそんなことないね」(チェルニー『証言録』、1852年)

かつてはナポレオンを「好かなかった」時期があるが、のちに好意を持つようになった。これは、当時の文化人や知識人において珍しい心理状態ではなかった。1820年の会話帳には、ベートーヴェンの友人知人たちがこんな「ナポレオン擁護」を行っている痕跡がある。

「私はドイツ人なので彼にとっては敵でしたが、時代状況によって和解に至りました」「ナポレオンは芸術と学問の支援者でしたよ」「彼はすべてにおいて封建制度を破壊し、正義と法律を保護してくれたのです」(『ベートーヴェンの会話帳』、1820年)

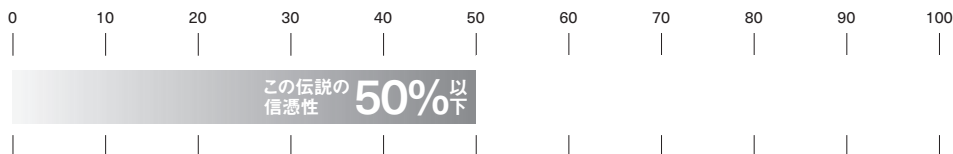
彼らの言葉を受けたベートーヴェンが、どんなリアクションを返したかは不明である。だが、もしベートーヴェンが異なる意見を持っていたなら、彼を中心にした筆談での会話がここまで盛り上

がることはなかったのではないだろうか。

いうまでもなく、感情をめぐる真偽の答えを知っているのは本人のみである。ゆえに真相は闇の中だ。しかし、もしベートーヴェンがナポレオンの皇帝就任に怒ったとしても、それは天才ならではの卓見というより、当時のごく標準的な民意のあらわれであったと考えるのが妥当だろう。ベートーヴェンは音楽家である以前に、ナポレオン戦争の時代を生きる一市民だったのである。

この連載では、ベートーヴェンを取り巻くさまざまな真偽不明の伝説を「検証」していきたい。

筆者の検証結果



本当に怒ったかは不明だが、一市民として怒った可能性は充分にありうる

主要参考文献・ウェブサイト

- ・ Ferdinand Ries, *Briefe und Dokumente*, bearbeitet von C. Hill, Bonn 1982
- ・ Anton Felix Schindler, *Biographie von Ludwig van Beethoven*, Münster 1840
- ・ Paul Badura-Skoda, *Carl Czerny on the Proper Performance of All Beethoven's Works for the Piano*, Vienna 1963
- ・ Franz Gerhard Wegeler und Ferdinand Ries, *Biographische Notizen über Ludwig van Beethoven*, Koblenz 1838
- ・ Deutschen Staatsbibliothek Berlin von Karl-Heinz Köhler (Hg.), *Ludwig van Beethovens Konversationshefte*, Leipzig 1968, Band1
- ・ メイナード・ソロモン『ベートーヴェン』岩波書店、徳丸吉彦、勝村仁子訳、1992年(原著：1977年)
- ・ 大崎滋生『ベートーヴェン像再構築』春秋社、2018年
- ・ Beethoven-Haus Bonn <https://www.beethoven.de/>

かげはら史帆 | かげはら・しほ

文筆家。著書に『ピアニストは「ファンサ」の原点か——スターとファンの誕生史』『ニジンスキーは銀橋で踊らない』『ベートーヴェンの愛弟子——フェルディナント・リースの数奇なる運命』『ベートーヴェン捏造——名プロデューサーは嘘をつく』。ほか音楽雑誌、文芸誌、イベントプログラム、ウェブメディアに小説、エッセイ、書評、インタビューなどを寄稿。

2026年10月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

バーメルトが引き出す ブルックナーの構造美

[Aプログラム]には、ヘルベルト・ブロムシュテットを迎える予定だった。桂冠名誉指揮者とともに創立100年を祝えないのは残念だが、今はただ、マエストロの健康の回復を祈りたい。

代役のマティアス・バーメルトは今年84歳の大ベテラン。2000年代には、N響にたびたび客演していた。プーレーズに感化されただけあって、現代曲を得意とし、「Music Tomorrow」で、西村朗や湯浅譲二の作品を的確な指揮ぶりで描いていた。その後しばらく空いてしまったが、19年ぶりとなる共演を、マエストロ自身、とても楽しみにされている様子だ。

古今のあらゆる作品に精通するバーメルトだが、特に古典から後期ロマン派にかけてのドイツ音楽は、最も得意な領域と言ってよい。いちばん好きなブルックナーの交響曲は、かつてN響とも演奏した《第6番》だという。後期の巨大建造物のような作品ではなく、均整の取れた美しさを持つ曲を好むところに、彼の特質が表れているように思われる。

今回の《交響曲第5番》は、ブルックナー自身が「対位法のマスターピース」と呼び、彼にしては珍しく、自作への自信を示した曲である。

真骨頂は第4楽章で、3種類のフーガを巧みに組み合わせながら、壮大なクライマックスが築かれる。ブロムシュテットは、この部分を「板の上でバランスを取る3つの卵」に例えていた。複雑なのに、あくまでも自然でシンプルに聴こえるところが、この曲の傑作たる所以なのだという。

とはいえ、聴き手にそう思わせるためには、通り一遍ではない指揮の技量が求められるだろう。現代音楽で培われたバーメルトのタクトによって、入り組んだ声部が解きほぐされ、音楽の構造が浮き彫りになるのではないかと予想する。

「私の心は常に皆さんと共にある」という、ブロムシュテットの言葉を思い出しながら、バーメルトにしかできない表現の世界を味わい尽くしたい。

エッセンバッハを 突き動かす原体験

[Cプログラム]は、2年半ぶりの登場となるクリストフ・エッセンバッハ。今年86歳、現役最高齢の世代に属するマエストロである。

1951年、当時11歳のエッセンバッハは、フルトヴェングラーが指揮するベルリン・フィルを聴いた。曲目はオール・ベートーヴェン。その中の1曲が《交響曲第5番「運命」》だった。それ

はまさに天の啓示だったという。「どうしてひとり
の人間が、これほどまでに多様な感情を伝える
ことができるのか」。ピアノの神童として名を馳
せていた彼が、指揮への関心を深めたのは、
その答えを知りたいと思ったからだだった。

エッシェンバッハはその後、カラヤンとセルに
学び、色彩感覚や明晰さを身につけるが、彼
にとっての音楽は、より根源的なものだ。両親
を早くに亡くし、難民キャンプで生死をさまよう
体験をした結果、一時は失語症に陥った彼
が、自分を取り戻すのは、養母の奏でるピアノ
によってであった。やがて自らも弾き始めるこ
とで、閉ざされていた心を解放していく。

心の奥底から湧き上がる何かに形を与えよ
うとしている。今でもマエストロの指揮を見て
いて、そう感じることもある。リハーサルでは、

ささやくような言葉と最小限の身ぶりだけで、
目指すべき方向が示される。時には大切な
宝物を愛でるように、メロディを歌わせる。バー
トーヴェンのようにオケが熟知した音楽では、
彼の最良の持ち味が引き出されるはずだ。

指揮者人生のきっかけとなった《運命》の他
に、軽やかで機知に富んだ《交響曲第8番》
をお願いした。第1楽章の展開部には、《運
命》の有名なモチーフと同じ型のリズムが繰り
返し現れる。意識して聴くのも一興かもしれない。
ドラマティックな《「エグモント」序曲》も、定
番の1曲である。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A

10/17 土
6:00pm
10/18 日
2:00pm

NHKホール

ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調

指揮：マティアス・バーメルト

※当初出演予定のヘルベルト・ブロムシュテットから変更いたします。



B

サントリーホール

2026年10月Bプログラムは特別公演開催のため休止いたします。

C

10/23 金
7:00pm
10/24 土
2:00pm

NHKホール

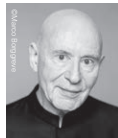
N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏2

ベートーヴェン／「エグモント」序曲

ベートーヴェン／交響曲 第8番 ヘ長調 作品93

ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

指揮：クリストフ・エッシェンバッハ



チケットのご案内(定期公演 2026年9月～2027年6月)

定期会員券		
毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～52%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大63%お得です。割引率は公演や席種によって異なります)		
発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2026年7月5日[日](定期会員先行)／2026年7月12日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2026年10月13日[火](定期会員先行)／2026年10月16日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2027年2月10日[水](定期会員先行)／2027年2月14日[日](一般)

料金(税込)						
年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム (3回)	一般	¥30,600(¥10,200)	¥25,500(¥8,500)	¥20,400(¥6,800)	¥16,575(¥5,525)	¥14,025(¥4,675)
	ユースチケット	¥15,300(¥5,100)	¥12,750(¥4,250)	¥10,200(¥3,400)	¥8,286(¥2,762)	¥7,011(¥2,337)
シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

1回券		
公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。		
発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2026年7月22日[水](定期会員先行)／2026年7月26日[日](一般)
	12・1・2月	2026年10月21日[水](定期会員先行)／2026年10月25日[日](一般)
	4・5・6月	2027年2月19日[金](定期会員先行)／2027年2月23日[火・祝](一般)

ユースチケット	
29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。	
※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。	
※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。	

WEBチケットN響

https://nhkso.pia.jp

お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm

定休日：土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に問わず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

2026-27定期公演プログラム

2026 09	A	第2069回	「危機の時代」にルイーゼが問う 大戦前夜の不穏さを孕んだ大作 N響100年特別企画 フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」(日本語字幕付き) 指揮:ファビオ・ルイーゼ ヨハネ(テノール):ミハエル・ラウレンツ 神の声(バス):ダーヴィト・シュテフェンス ソプラノ:迫田美帆 メゾ・ソプラノ:藤井麻美 テノール:伊藤達人 バス:加藤宏隆 オルガン:新山恵理 合唱:新国立劇場合唱団 合唱指揮:富平恭平	一般 S ¥15,000 A ¥12,500 B ¥10,000 C ¥8,000 D ¥6,500 E ¥4,500	ユースチケット S ¥7,000 A ¥6,000 B ¥5,000 C ¥4,000 D ¥3,000 E ¥2,000
		9/12(土) 6:00pm 9/13(日) 2:00pm			
		NHKホール			
2026 10	B	第2070回	ルイーゼの道案内で分け入る ドイツ・ロマンの森 ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲 ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77 シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版) 指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		9/17(木) 7:00pm 9/18(金) 7:00pm			
		サントリーホール			
2026 10	C	第2071回	爆発する才気と 大胆不敵さ N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1 ベートーヴェン／交響曲 第1番 八長調 作品21 ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」 指揮:ファビオ・ルイーゼ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500 E ¥3,300	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥3,600 C ¥3,250 D ¥1,900 E ¥1,600
		9/25(金) 7:00pm 9/26(土) 2:00pm			
		NHKホール			
2026 10	A	第2072回	ロンドン、ルツェルン、札幌を魅了した本格派の巨匠が築く 荘厳な音の伽藍 ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調 指揮:マティアス・バーメルト ※当初出演予定のヘルベルト・ブロムシュテットから変更いたします。	一般 S ¥15,000 A ¥12,500 B ¥10,000 C ¥8,000 D ¥6,500 E ¥4,500	ユースチケット S ¥7,000 A ¥6,000 B ¥5,000 C ¥4,000 D ¥3,000 E ¥2,000
		10/17(土) 6:00pm 10/18(日) 2:00pm			
		NHKホール			
2026 10	B		2026年10月Bプログラムは特別公演開催のため休止いたします。		
2026 11	C	第2073回	全曲を統べる 律動と生命力 N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏2 ベートーヴェン／「エグモント」序曲 ベートーヴェン／交響曲 第8番 へ長調 作品93 ベートーヴェン／交響曲 第5番 八短調 作品67「運命」 指揮:クリストフ・エッシェンバッハ	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		10/23(金) 7:00pm 10/24(土) 2:00pm			
		NHKホール			
2026 11	A	第2074回	戦時にショスタコーヴィチがスコアに込めた「叫び」をソビエフが振り出す プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19 ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65 指揮:トゥガン・ソヒエフ ヴァイオリン:神尾真由子	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500 E ¥3,300	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥3,600 C ¥3,250 D ¥1,900 E ¥1,600
		11/7(土) 6:00pm 11/8(日) 2:00pm			
		NHKホール			
2026 11	B	第2076回	北の大地のロマンティズムとファンタジー ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 八短調 作品18 チャイコフスキー／バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71 (ソビエフ・セレクション) 指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:アレクサンドル・カントロフ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		11/19(木) 7:00pm 11/20(金) 7:00pm			
		サントリーホール			
2026 11	C	第2075回	均整美、旋律美、そして自然への愛 N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏3 ベートーヴェン／序曲「コリオリ」 ベートーヴェン／交響曲 第2番 二長調 作品36 ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」 指揮:トゥガン・ソヒエフ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500 E ¥3,300	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥3,600 C ¥3,250 D ¥1,900 E ¥1,600
		11/13(金) 7:00pm 11/14(土) 2:00pm			
		NHKホール			

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2026 12	A	第2077回 11/28(土) 6:00pm 11/29(日) 2:00pm ※12月定期公演Aプログラムは 11月に開催いたします。 NHKホール		デュエワ&アルゲリッチ 四半世紀の時を経てN響で再共演! N響100年特別企画 ファリャ/バレエ組曲「三角帽子」第2番 ラヴェル/ピアノ協奏曲ト長調 ベルリオーズ/幻想交響曲 作品14 指揮:シャルル・デュエワ ピアノ:マルタ・アルゲリッチ	
	B	第2079回 12/10(木) 7:00pm 12/11(金) 7:00pm サントリーホール		オ人・エメリヤニチェフが命を吹き込む 100年記念作と《スコットランド》 モーツァルト/歌劇「魔笛」序曲 スルンカ/煙—チェロとオーケストラのための 【NHK交響楽団100年記念委嘱作品/世界初演】 メンデルスゾーン/交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」 指揮:マキシム・エメリヤニチェフ チェロ:ニコラ・アルトシュテット	
	C	第2078回 12/4(金) 7:00pm 12/5(土) 2:00pm NHKホール		極限まで追求された リズムのポテンシャル N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏4 ベートーヴェン/交響曲 第4番 変ロ長調 作品60 ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92 指揮:シャルル・デュエワ ※ベートーヴェン(交響曲第9番「合唱つき」)は、 2026年末の「ベートーヴェン[第9]演奏会」で演奏予定です(指揮:マレク・ヤノフスキ)。	
	A	第2080回 1/16(土) 6:00pm 1/17(日) 2:00pm NHKホール		ルイージ&N響が満を持して挑む マラー最高峰の交響曲 マラー/交響曲 第9番 二長調 指揮:ファビオ・ルイージ	
	B			2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。	
	C	第2081回 1/22(金) 7:00pm 1/23(土) 2:00pm NHKホール		「デンマークのベートーヴェン」ニルセン最後のシンフォニー ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1 ソレンセン/夕暮れの大地(2017) ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15 ニルセン/交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」 指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:アレクサンドロ・タヴェルナ	
	A	第2082回 2/6(土) 6:00pm 2/7(日) 2:00pm NHKホール		鬼オマナコルダとドイツ語圏音楽 300年の成り行きを俯瞰する バッハ(ウェーベルン編)/ 「音楽のさざめき」BWV1079—6声のリチエルカール マラー/リュッケルトによる5つの歌 シェーンベルク/室内交響曲 第2番 作品38 シューベルト/交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」 指揮:アントネット・マナコルダ バリトン:アンドレ・ジュエン	
	B			2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。	
	C	第2083回 2/12(金) 7:00pm 2/13(土) 2:00pm NHKホール		子が光を当てる父とその盟友の名作 そして超新星ピアニスト降臨! ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2 シューマン/歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲 ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19 尾高尚忠/交響詩「蘆屋乙女」作品9 バヌフニク/交響曲 第2番「悲歌」 指揮:尾高忠明 ピアノ:イム・ユンチャン	
2027 01	A			一般 ユースチケット S ¥17,000 S ¥8,500 A ¥14,500 A ¥7,000 B ¥11,500 B ¥5,500 C ¥9,500 C ¥4,500 D ¥7,500 D ¥3,500 E ¥5,500 E ¥2,500	
	B			一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
	C			一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥3,600 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥1,900 E ¥3,300 E ¥1,600	
	A			一般 ユースチケット S ¥13,000 S ¥6,500 A ¥11,000 A ¥5,200 B ¥8,500 B ¥4,000 C ¥7,000 C ¥3,500 D ¥5,600 D ¥2,000 E ¥3,500 E ¥1,700	
	B				
	C				
	A				
	B				
	C				
	A				
2027 02	A			一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000	
	B				
	C				
	A				
	B				
	C				
	A				
	B				
	C				
	A				

2027
04

A	第2084回	いざ、ルイーゼと行かん! アルプスという名の「人生」を歩む旅へ メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64	一般 S ¥13,000 A ¥11,000 B ¥8,500 C ¥7,000 D ¥5,600 E ¥3,500	ユースチケット S ¥6,500 A ¥5,200 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,000 E ¥1,700
	4/10(土) 6:00pm 4/11(日) 2:00pm	指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス		
B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。		
C	第2085回	若きカリスマ エリム・チャンが放つ圧倒的な躍動感 ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3 ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37 チン・ウンスク／スピト・コン・フォルツァ シヨスタコーヴィチ／交響曲 第9番 変ホ長調 作品70	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
	4/23(金) 7:00pm 4/24(土) 2:00pm	指揮:エリム・チャン ピアノ:アリス・紗良・オット		

NHKホール

2027
05

A	第2086回	バーヴォのイチ押し! 北欧・珠玉の名品たち グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ステンハンマル／交響曲 第2番 ト短調 作品34	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500 E ¥3,300	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥3,600 C ¥3,250 D ¥1,900 E ¥1,600
	5/8(土) 6:00pm 5/9(日) 2:00pm	指揮:バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:デニス・コジュビン		
B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。		
C	第2087回	こだわりのプログラムを携え 名匠ケント・ナガノ N響を初指揮 ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4 リュリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粋) ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58 R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
	5/21(金) 7:00pm 5/22(土) 2:00pm	指揮:ケント・ナガノ ピアノ:ティル・フェルナー		

NHKホール

2027
06

A	第2088回	ソヒエフ&N響の初ブルックナーはワーグナーに捧げられた意欲作 モーツァルト／交響曲 第35番 二長調 K. 385「ハフナー」 ブルックナー／交響曲 第3番 二短調「ワーグナー」(第3稿/1889)	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500 E ¥3,300	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥3,600 C ¥3,250 D ¥1,900 E ¥1,600
	6/5(土) 6:00pm 6/6(日) 2:00pm	指揮:トウガン・ソヒエフ		
B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。		
C	第2089回	若き大物がN響と正面から取り組む 本格的独逸プログラム ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
	6/18(金) 7:00pm 6/19(土) 2:00pm	指揮:トーマス・グッガイス ピアノ:キリル・ゲルシュタイン		

NHKホール

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

(料金はすべて税込)

特別公演

10/3 土 6:00pm

10/4 日 2:00pm

N響100年記念 特別演奏会 マーラー「復活」

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイーヂ ソプラノ:イン・ファン メゾ・ソプラノ:タマラ・mamフォード 合唱:新国立劇場合唱団
合唱指揮:富平恭平
マーラー／交響曲 第2番 ハ短調「復活」

料金(税込):一般 | S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円
ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 7月22日(水) 10:00am
一般 | 7月26日(日) 10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

10/30 金 7:00pm

10/31 土 4:00pm

NHK交響楽団 ブ람ス交響曲 全曲演奏会

東京芸術劇場

10/30(金) | 指揮:クリストフ・エッセンバッハ ※当初出演予定のヘルベルト・ブロムシュテットから変更いたします。
ブ람ス／交響曲 第2番 ニ長調 作品73、交響曲 第4番 ホ短調 作品98

10/31(土) | 指揮:クリストフ・エッセンバッハ
ブ람ス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90、交響曲 第1番 ハ短調 作品68

料金(税込):セット券 | 一般 | S席30,000円 A席24,600円 B席21,200円 C席14,000円
セット券 | ユースチケット(29歳以下) | S席15,000円 A席12,300円 B席10,600円 C席7,000円
1回券 | 一般 | S席17,000円 A席14,000円 B席12,000円 C席8,000円
1回券 | ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席7,000円 B席6,000円 C席4,000円
※定期会員は一般料金の10%割引(ただしセット券はのぞく)

チケット発売日:[セット券]7月12日(日) 10:00am [1回券]N響定期会員先行 | 7月22日(水) 10:00am
一般 | 7月26日(日) 10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

12/17^木 7:00pm

12/18^金 7:00pm

12/19^土 2:00pm

12/20^日 2:00pm

12/22^火 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏5

指揮:マレク・ヤノフスキ ソプラノ:森谷真理 メゾ・ソプラノ:杉山由紀 テノール:村上公太

バス・バリトン:トマシュ・コニエチュニー 合唱:東京オペラシンガーズ 合唱指揮:富平恭平

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月1日(火)10:00am

一般 | 9月6日(日)10:00am

※12月22日はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。プログラムは他の日程と同一です。お問合せ:NHK厚生文化事業団 TEL(03)3476-5955

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(22日公演のみ)

協賛:はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

12/23^水 7:00pm | かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏5

指揮:マレク・ヤノフスキ ソプラノ:森谷真理 メゾ・ソプラノ:杉山由紀 テノール:村上公太

バス・バリトン:トマシュ・コニエチュニー 合唱:東京オペラシンガーズ 合唱指揮:富平恭平 オルガン:勝山雅世*

バッハ／「高き天よりわれは来れり」によるカノン風変奏曲 BWV 769*

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月1日(火)10:00am

一般 | 9月6日(日)10:00am

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぽ生命保険

2027/1/10(日) 3:00pm

2027/1/11(月) 3:00pm

創立100年記念 N響ニューイヤーコンサート

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイージ ソプラノ:カミラ・ニールンド* テノール:クラウス・フロリアン・フォクト*

ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」*

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—「きみこそは春」*

ワーグナー／歌劇「ローエングリン」—聖杯の物語「はるかな国に」*

ワーグナー／歌劇「タンホイザー」—「おごそかなこの広間よ」*

ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「愛の夜よ、とばりを降ろせ」**

J. シュトラウスII世／喜歌劇「こうもり」—序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」*

レハール／喜歌劇「メリー・ウィドー」—「ヴェリアの歌」*

カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」—「ウィーンによろしく」*

J. シュトラウスII世／皇帝円舞曲 作品437

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」**

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,500円 C席7,500円 D席6,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,750円 C席3,750円 D席3,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月1日(火) 10:00am

一般 | 9月6日(日) 10:00am

主催:NHK / NHK交響楽団

2027/2/20(土) 3:00pm

2027/2/21(日) 2:00pm

初演300年記念《マタイ受難曲》指揮 トン・コープマン

NHKホール

指揮:トン・コープマン 福音史家、テノール:ティルマン・リヒディ イエス:調整中 ソプラノ:森 麻季

カウンターテナー:マルテン・エンヘルチェス バス・バリトン:クラウス・メルテンス

合唱:アムステルダム・バロック合唱団 児童合唱:東京少年少女合唱隊 ほか

※当初発表より、配役の変更および出演者の追加が生じています。

バッハ／マタイ受難曲 BWV 244 (日本語字幕付き)

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,500円 C席7,500円 D席6,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,750円 C席3,750円 D席3,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 10月21日(水) 10:00am

一般 | 10月25日(日) 10:00am

主催:NHK / NHK交響楽団

2027/4/15(木) 7:00pm

東京芸術劇場

2027/4/16(金) 7:00pm

指揮:ファビオ・ルイーヂ チェロ:辻本 玲*

フランツ・シュミット／歌劇「ノートルダム」―「間奏曲と謝肉祭の音楽」

ヒンデミット／バレエ組曲「気高い幻想」

R. シュトラウス／交響詩「ドン・キホーテ」作品35*

2027/5/13(木) 7:00pm

東京芸術劇場

2027/5/14(金) 7:00pm

指揮:沖澤のどか ハープ:早川りさこ

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲

ランサン／ハープと管弦楽のための田園協奏曲

タイユフェール／小組曲

ラヴェル／バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番

2027/6/10(木) 7:00pm

東京芸術劇場

2027/6/11(金) 7:00pm

指揮:トゥガン・ソヒエフ オーボエ:中村周平 クラリネット:松本健司 ファゴット:宇賀神広宣 ホルン:今井仁志

プロコフィエフ／古典交響曲 作品25

モーツァルト／4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

料金(税込): セット券 | 一般 | S席29,400円 A席24,600円 B席19,500円 C席15,900円

セット券 | ユースチケット(29歳以下) | S席14,700円 A席12,300円 B席9,600円 C席7,800円

1回券 | 一般 | S席12,000円 A席10,000円 B席8,000円 C席6,500円

1回券 | ユースチケット(29歳以下) | S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 C席3,200円

※定期会員は一般料金の10%割引(ただしセット券はのぞく)

チケット発売日: [セット券] Bプログラム定期会員先行 | 11月24日(火)10:00am

N響定期会員先行 | 11月28日(土)10:00am

一般 | 12月2日(水)10:00am

[1回券] N響定期会員先行 | 12月16日(水)10:00am

一般 | 12月20日(日)10:00am

主催:NHK / NHK交響楽団

お申し込み

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

9/20[日] 3:00pm | 第28回NHK交響楽団 足利定期公演

あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)・文化ホール

指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ

ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲

ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版)

主催:(公財)足利市みどり文化・スポーツ財団 お問い合わせ:あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ) TEL(0284)72-8511

9/21[月祝] 2:00pm | NHK交響楽団演奏会 高崎公演

高崎芸術劇場 大劇場

出演者・曲目は9月20日と同じ

主催:高崎芸術劇場((公財)高崎財団) お問い合わせ:高崎芸術劇場チケットセンター TEL(027)321-3900

10/10[土] 4:00pm

N響100周年 & サントリーホール40周年

10/12[月祝] 4:00pm

ファビオ・ルイージ指揮 プッチーニ:オペラ『トスカ』(演奏会形式)

サントリーホール

指揮:ファビオ・ルイージ トスカ:エレナ・スティッキーナ カヴァラドッシ:リッカルド・マッシ

スカルピア男爵:アンブロジオ・マエストリ アンジェロッティ:妻屋秀和 教会の番人:井出壮志朗

スポレッタ:糸賀修平 シャルローネ:藪内俊弥 看守:畠山 茂

合唱:東京オペラシンガーズ(合唱指揮:仲田淳也) 児童合唱:NHK東京児童合唱団

プッチーニ／歌劇「トスカ」(演奏会形式)

チケット発売日:サントリーホール・メンバーズ・クラブ & N響定期会員先行 | 5月13日(水) 10:00am ~ 5月19日(火)

一般 | 5月20日(水) 10:00am

※チケットの詳細はホームページをご覧ください

主催:サントリーホール 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:サントリーホール チケットセンター TEL(0570)55-0017

11/3[火] 4:30pm | NHK交響楽団 浦安特別公演2026

浦安市文化会館 大ホール

指揮:阿部加奈子 ギター:岡本拓也

リムスキー・コルサコフ／スペイン奇想曲 作品34

ロドリゴ／アランフェス協奏曲

チャイコフスキー／イタリア奇想曲 作品45

ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

主催:(公財)うらやす財団 お問い合わせ:浦安市文化会館 TEL(047)353-1121

11/22^日 3:00pm | NHK音楽祭2026

NHKホール

指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:アレクサンドル・カントロフ

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

チャイコフスキー／バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71 (ソヒエフ・セクション)

主催:NHK／NHKプロモーション 共催:NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

1/7^日 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

ザ・シンフォニーホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ ソプラノ:カミラ・ニールンド* テノール:クラウド・フロリアン・フォークト*

ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」*

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—「きみこそは春」*

ワーグナー／歌劇「ローエングリン」—聖杯の物語「はるかな国に」*

ワーグナー／歌劇「タンホイザー」—「おごそかなこの広間よ」*

ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「愛の夜よ、とばりを降ろせ」**

J. シュトラウスII世／喜歌劇「こうもり」—序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」*

レハール／喜歌劇「メリー・ウィドー」—「ヴィリアの歌」*

カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」—「ウィーンによろしく」*

J. シュトラウスII世／皇帝円舞曲 作品437

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」**

主催:NHK大阪放送局／NHK交響楽団 お問合せ:NHK大阪ホール NHKイベントガイド TEL(06)6947-5000

1/27^水 7:00pm | 2027都民音楽フェスティバル オーケストラ・シリーズ No. 58 NHK交響楽団

東京芸術劇場

指揮:バスカル・ロフェ ピアノ:小林愛実

ストラヴィンスキー／組曲「ブルチネツラ」

ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調

ブラームス／大学祝典序曲 作品80

ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

主催・お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL(03)3539-5131

1/29^金 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 宮崎公演

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) アイザックスターンホール

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催:UMKテレビ宮崎 お問合せ:テレビ宮崎 事業部 TEL(0985)31-5131

1/30^土 4:30pm | NHK交響楽団演奏会 大分公演

iichiko総合文化センター iichiko グランシアタ

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催:NHK大分放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

1/31^日 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 熊本公演

市民会館シアーズホーム夢ホール 大ホール

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催:NHK熊本放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

2/1^月 7:00pm | 久留米シティプラザ開館10周年記念 NHK交響楽団 久留米公演

久留米シティプラザ ザ・グランドホール

出演者・曲目は1月27日と同じ

主催・お問合せ:久留米シティプラザ(久留米市) TEL(0942)36-3000

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

11/23^{月祝} 3:30pm

出演者・曲目は11月22日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

曲目解説執筆者

中村伸子(なかもら のぶこ)

宮城県仙台市出身。東京藝術大学楽理科を経て同大学院音楽研究科(音楽学)修士課程修了。現在、ウィーン国立音楽大学エクシールアルテ・センターの上級研究員としてエーリヒ・ヴォルフガング・コルンゴルトの書簡全集を編集するとともに、同オペラ《死の都》の一次資料に関して博士論文を執筆中。各種音楽媒体への寄稿のほか、楽曲解説、演奏会企画、字幕制作など多数。

西田紘子(にしだ ひろこ)

九州大学大学院教授。専門は欧米の音楽理論や音楽美学。著書に『ハインリヒ・シェンカーの音楽思想——楽曲分析を超えて』、共編著書に『近代日本と西洋音楽理論——グローバルな理論史に向けて』『音楽と心の科学史——音楽学と心理学が交差するとき』、共訳書に『絶対音楽——その理念史』など。

安田和信(やすだ かずのぶ)

国立音楽大学大学院音楽研究科音楽学専攻修了。桐朋学園大学准教授。同大学附属子供のための音楽教室鎌倉横浜および富士教室室長。おもな研究領域は18世紀の西洋音楽史。共著書に『楽譜をまるごと読み解く本』『200CD オーケストラ こだわりの聴き方』など、共訳書にニール・ザスロー、ウィリアム・カウデリー編『モーツァルト全作品事典』など。

(五十音順、敬称略)

N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

Eテレ 日曜9:00~11:00pm

ベストオブクラシック

FM 7:35~9:15pm

N響演奏会

FM 土曜4:00~5:50pm(不定期)

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

Eテレ 木曜9:00~9:30pm

月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらのテレビ・ラジオ番組はすべて「NHK ONE」で同時配信しており、その後1週間何度でもご視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役 社長兼 CEO 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO 小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長 石原恒和

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 上野金太郎
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 平澤寿一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役 会長執行役員 鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 松村洋季	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 石原 勉
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・ AXLBIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・ (-財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 有吉伸人
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表執行役社長 Group CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (学)NHK学園 理事長 荒木美弥子
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ 岩田地崎建設(株) 代表取締役社長 岩田幸治	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 松岡 烈

- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHKテクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHKビジネススクリエイト
代表取締役社長 | 梶 健一郎
- ・(株)NHKプロモーション
代表取締役社長 | 見邨俊一
- ・NGK(株)
代表取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 川口 晋
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 加藤幸洋
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 桐生雅文
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント グループ(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんば生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 大西 徹

- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)KiteRa
代表取締役 執行役員 CEO | 植松隆史
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 小淵敏郎
- ・(一社)共同通信社
社長 | 沢井俊光
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
天野貴夫
- ・KDDI(株)
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(団)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・コグニティブリサーチラボ(株)
代表取締役 | 苦米地英人
- ・(団)財団 湖聖会
理事長 | 湖山泰成
- ・小林弘信
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下寧久
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一

- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 林 秀明
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・(株)ショットビジョン
代表取締役 | 森 昇平
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・スカパーJSAT(株)
代表取締役 執行役員社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役会長 | 古江訓雄
- ・(株)スターフォー
代表取締役 | 加藤智也
- ・住友商事(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノ
代表取締役社長 | 澤本 泉
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長グループCEO | 岩上敦宏

- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株)
代表取締役会長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・武石洋明
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 丁野成人
- ・(株)竹中土木
取締役社長 | 竹中祥悟
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・(株)ダブルスタンダード
代表取締役 | 福永康寛
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 松本千里
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 速川智行
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・東北電力(株)
代表取締役社長 | 石山一弘
- ・(有)外川ビル
代表取締役 | 外川信晃
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)TOPPAN三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 近 健太
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日放ツーリスト
代表取締役社長 | 佐々木裕二
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・(株)日本ヴァイオリン
代表取締役 | 中澤創太
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 前田浩志
- ・(株)日本政策投資銀行
代表取締役会長 | 太田 充
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 筒井岳彦
- ・日本通運(株)
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本通信(株)
代表取締役社長兼CEO
福田尚久
- ・日本電気(株)
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之
- ・日本BCP(株)
代表取締役社長 | 角谷育則
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 黒崎めぐみ
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 根岸一行
- ・(株)ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・原田清朗
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福島小松フォークリフト(株)
代表取締役 | 四家英彦
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・(株)船井本社
代表取締役 | 船井勝仁
- ・古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 寺田健二
- ・(公財)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ボラリス・キャピタル・グループ(株)
代表取締役社長 | 木村雄治

- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏
 - ・牧 寛之
 - ・町田優子
 - ・松本満里子
 - ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 大本晶之
 - ・溝江建設(株)
代表取締役 | 溝江 弘
 - ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 海山 裕
 - ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
 - ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 米山学朋
 - ・三井住友トラストクラブ(株)
代表取締役社長 | 山口信明
 - ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
 - ・密山根成
 - ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
 - ・三橋洋之
 - ・三原穂積
 - ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
 - ・(有)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直昭
 - ・明治ホールディングス(株)
代表取締役社長 CEO | 松田克也
 - ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
 - ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オスティン
 - ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
 - ・(株)森エンジニアリング
代表取締役 | 森 豊洋
 - ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 向後康弘
 - ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
 - ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
 - ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
 - ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
 - ・米澤文彦
 - ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
 - ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 岩上秀憲
 - ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井 徹
 - ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 白鳥正美
 - ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員 | 東 克己
 - ・(株)ワールド航空サービス
代表取締役社長 | 菊間陽介
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 堀内博人
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団へのご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図るために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

「N響100年」特別賛助会員

株式会社アイシン

株式会社あ佳音

朝日信用金庫

イーソリューションズ株式会社

岩谷産業株式会社

内 聖美

株式会社NHK テクノロジーズ

NGK株式会社

NTT東日本株式会社

カルチュア・エンタテインメント グループ株式会社

医療法人社団 恒仁会

小林 弘侑

佐藤 弘康

株式会社ジェイ・ウィル・コーポレーション

JCOM株式会社

信越化学工業株式会社

新菱冷熱工業株式会社

株式会社菅原

セイコーグループ株式会社

株式会社セノン

全日本空輸株式会社

東信地所株式会社

桐朋学園大学

一般財団法人 TOPPAN三幸会

日東紡績株式会社

日本通信株式会社

日本みらいホールディングス株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

古川 宣一

株式会社朋栄ホールディングス

ホクト株式会社

株式会社みずほ銀行

三菱地所株式会社

三橋産業株式会社

三橋 洋之

株式会社目の眼

米澤 文彦

株式会社読売旅行

料亭 三長

株式会社リンレイ

有限会社ルナ・エンタープライズ

YCC株式会社

(五十音順、敬称略)

「N響100年」個人サポーター

青木 恒雄
東 則仁
阿部 直子
阿部 直子
飯田 陽介
井口 一世
池田 太朗
石井 育子
石崎 隆
磯上 樹
板倉 由美子
市橋 敏行
出石 直
稲吉 務
今泉 美輪
歌川 博之
内山 その
内山 貴史
榎本 悠介
大川 啓太
大木 千秋
大谷 淳
大谷 明
大矢 菜穂子
岡井 良祐
岡本 誠
小川 芳幸
尾澤 勉
尾島 大樹

影井 良貴
加藤 充子
門脇 昌子
鎌谷 朝之
神谷 久覚
唐木田 信也
刈谷 敦子
川北 晃彦
川崎 昭久
川名 庸一
川鍋 義章
川原 真理子
川村 哲也
簡 妙芬
冠 和宏
岸 道郎
北見 欣一
亀徳 忠正
貴布根 弘篤
木村 達央
木村 素子
清谷 直樹
蔵並 慧
黒木 憲太郎
黒田 真二
河野 太
古賀 信行
湖口 和幸
小島 美智恵

児矢野 昌敬
小山 豊
今野 恵一郎
坂井 康柄
阪本 信次
櫻澤 仁
佐宗 孝樹
佐藤 圭子
佐藤 治彦
三戸 淳一
柴田 理佳子
白取 洋
新保 和浩
鈴木 忠明
鈴木 宏治
曾我 健
大門 匡
高木 功介
高田 康裕
高橋 正好
高原 俊二
田島 大輔
立石 知宏
田中 治郎
田中 伸幸
田中 正彦
張 嘉淵
津久井 秀郎
津々木 孝

恒川 雄三
時岡 明弘
轟 晴美
富永 純子
富永 龍太郎
長尾 公彦
中川 幸子
中村 秀哉
中村 幸雄
根本 昌代
根本 佳則
野島 浩司
野田 広
野武 一郎
野中 明人
配島 一善
林 尚美
原田 清朗
疋田 和代
檜山 隆
福井 真哉
福本 出
藤沼 竜也
藤森 博昭
船井 勝仁
古川 澄兄
真木 太郎
牧 廣美
町田 優子

松澤 和男
松信 正志
三井田 健
水上 慶太
三橋 祐太
三村 啓
宮崎 宏史
村井 暁子
村井 正浩
村上 純子
本 敬之
森山 雅一郎
柳原 隆司
薮下 真平
山口 剛史
山崎 雅彦
山下 史雄
山本 英一
横尾 順
四元 俊英
渡邊 貴子
渡邊 健
渡辺 徹郎

(五十音順、敬称略)

Information

入団

クラリネット 堂面宏起(どうめん ひろき) 2026年9月1日付で入団。

訃報

当団元ヴァイオリン奏者(1977年1月入団)で団友の根津昭義(ねづ あきよし)氏が、2026年6月20日に逝去されました。享年77。ここに謹んで哀悼の意を表します。

お詫びと訂正

本誌『フィルハーモニー』2026年6月号にて誤りがございました。
お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正をさせていただきます。

・22頁 ドビュッシー《交響詩「海」》の最後の一文

〔誤〕第3曲〈風と波との対話〉

〔正〕第3曲〈風と海との対話〉

・27～28頁 ベルリオーズ《歌曲集「夏の夜」》の歌詞対訳

第6曲〈未知の島〉におきまして、編集上の不備により歌詞の一部が前後するなどの誤りが生じました。正しい内容はN響ホームページに掲載の誌面PDFをご参照ください。

<https://www.nhkso.or.jp/concert/phil26Jun.pdf>



2027年1月定期公演Cプログラムで演奏予定のソレンセン作曲《夕暮れの大地》について、これまで日本初演としていましたが、その後の調査により、すでに国内で演奏実績があることが確認されました。

このため、「日本初演」の記載を削除の上、訂正させていただきます。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi
Music Director Emeritus: Charles Dutoit
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy
Honorary Conductor: Paavo Järvi
Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara
Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Ayumu Iizuka
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Taiga Tojo
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Haruhiko Mimata
- Nana Miyagawa
- Tsutomu Yamagishi
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Reika Shimizu
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Ryuto Murao
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Masamichi Yokoshima
- Yuka Yoneda

* Yui Yuhara

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Shigetaka Obata
- Eri Kuribayashi
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- * Shiori Wada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- # Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Shuhei Nakamura
- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- Hiroki Domen
- Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Shusuke Ouchi
- Yuki Sato
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

◇ Nobuaki Fukukawa

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa

Tomoki Ando
Kotaro Fujii
Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Shoichi Kubo
- ☆ Toru Uematsu

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga

Librarians

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ◇ Guest Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, * Intern)

PROGRAM

A

Concert No.2069

NHK Hall

September

12 (Sat) 6:00pm

13 (Sun) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi

tenor (Johannes)

Michael Laurenz

bass (Voice of God)

David Steffens

soprano

Miho Sakoda

mezzo soprano

Asami Fujii

tenor

Tatsundo Ito

bass

Hirotaka Kato

organ

Eri Niiyama

chorus

New National Theatre Chorus

chorus master

Kyohei Tomihira

concertmaster

Kota Nagahara

NHKSO 100th Anniversary

Franz Schmidt

Das Buch mit sieben Siegeln, oratorio (The Book with Seven Seals) [110']

Prologue

Part 1

Part 2

Japanese Supertitles: Daisuke Hirose

Supertitles Operation: Zimaku Plus Inc.

- This concert will be performed with no intermission.

- All performance durations are approximate.

A

12 & 13, SEPT. 2026

Fabio Luisi, conductor



Fabio Luisi hails from Genoa. He first conducted the NHK Symphony Orchestra in 2001 and became its Chief Conductor in September 2022. He performed Verdi's *Requiem* to celebrate his appointment, and Mahler's *Symphonie der Tausend* for the orchestra's 2000th subscription concert in 2023. In 2024, he led the orchestra's Taiwanese tour, and then in May 2025, he successfully led its European tour scheduled in con-

junction with Amsterdam's Mahler Festival at The Concertgebouw, the Prague Spring Festival and the Dresdner Musikfestspiele: the NHK Symphony Orchestra was the first Asian orchestra to appear at the Mahler Festival, performing the composer's Symphonies No. 3 and No. 4 to critical praise. In September 2028, he will become Honorary Conductor Laureate of the NHK Symphony Orchestra.

Currently he serves as the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra, and previously he was General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of New York's Metropolitan Opera, Chief Conductor of the Wiener Symphoniker, General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Principal Conductor and Chief Conductor of the MDR-Sinfonieorchester, Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande, Chief Conductor of the Tonkünstler Orchester and Artistic Director of the Grazer Symphonisches Orchester. He is also Music Director of Puglia's Festival della Valle d'Itria Martina Franca and Emeritus Conductor of Orchestra Sinfonica Nazionale della Rai. He is a frequent guest of leading orchestras including the Berliner Philharmoniker, the Royal Concertgebouw Orchestra and the Saito Kinen Orchestra, opera houses and festivals worldwide.

In recording, his complete Nielsen symphonic cycle with the Danish National Symphony Orchestra was recognized with *Limelight* and Abbiati Awards in 2023, while its first volume was named Recording of the Year by *Gramophone*. He received a Grammy Award for his leadership of the last two operas of Wagner's *Ring* cycle at the Metropolitan Opera, as released on DVD. His second CD with the NHK Symphony Orchestra, *Mahler: Symphony No. 5* will be released in September 2026.

He is an accomplished composer and maker of perfumes.

Michael Laurenz, tenor (Johannes)



German tenor Michael Laurenz is acclaimed for his precise musical phrasing, compelling stage presence, and remarkable dramatic versatility. Born in Halle, he served as principal trumpet of the Berliner Symphoniker before turning to singing. From 2018 to 2020 he was a permanent member of the ensemble of the Wiener Staatsoper, with which he continues to maintain a close artistic relationship as a frequent guest.

A central focus of his career lies in the character tenor repertoire, with particular emphasis on roles in the works of Wagner, R. Strauss, Mozart, and contemporary composers. Numerous

new productions and role debuts have taken him to major opera houses as well as to the Glyndebourne Festival and the Salzburger Festspiele. He has performed with the Dallas Symphony Orchestra under Fabio Luisi in concert performances of *Das Rheingold* and *Siegfried* as Mime. Collaborations with conductors such as Philippe Jordan, Christian Thielemann and Marc Minkowski and renowned stage directors have been formative in his artistic development.

For his NHK Symphony Orchestra debut, he will sing John (Johannes) for Franz Schmidt's German oratorio *Das Buch mit sieben Siegeln* (*The Book with Seven Seals*), the role he had sung for the Orquesta Nacional de España directed by Fabio Luisi in November 2025.

David Steffens, bass (Voice of God)



Born in Bavaria, German sought-after bass David Steffens has been a member of the Staatsoper Stuttgart ensemble since the 2015/16 season, where he has appeared in a variety of roles, including as Sarastro (*Die Zauberflöte*), Heinrich der Vogler (*Lohengrin*), Hunding (*Die Walküre*), Fafner (*Siegfried*), Gurnemanz (*Parsifal*), Pimen (*Boris Godunov*), Der Baron Ochs auf Lerchenau (*Der Rosenkavalier*) and Jochanaan (*Salome*).

He appears as a guest on international opera stages including the Salzburger Festspiele, Staatsoper Berlin, Teatro Real, Semperoper Dresden, Théâtre des Champs-Élysées, and the Dutch National Opera.

This season, in addition to appearing as Fasolt (*Das Rheingold*) at the Opernhaus Zürich and to giving his role debut as Hans Sachs (*Die Meistersinger von Nürnberg*) in Stuttgart, he collaborates with the Berliner Philharmoniker in Beethoven's *Missa Solemnis* under Kirill Petrenko, and with the Boston Symphony Orchestra in Haydn's *Die Schöpfung* (*The Creation*) under Philippe Jordan. Throughout his international career, he has worked with conductors such as Zubin Mehta, Kent Nagano and Simon Rattle.

He made his NHK Symphony Orchestra debut in 2023 performing Mahler's *Symphonie der Tausend* under Fabio Luisi. This time, he will rejoin the orchestra as the Voice of God for Franz Schmidt's German oratorio *Das Buch mit sieben Siegeln* (*The Book with Seven Seals*), the role he had sung for Fabio Luisi conducting the Wiener Symphoniker in September 2025.

Miho Sakoda, soprano



Japanese soprano Miho Sakoda has risen to prominence with particular distinction as the title role of Puccini's *Madama Butterfly*. She successfully appeared in the role at the Fort Worth Opera in Texas in April 2026, the Opera in Williamsburg 2025 in Virginia, the Hyogo Performing Arts Center Opera 2024 (produced by Yutaka Sado) and the Savannah VOICE Festival 2023 in Georgia (USA).

Recently, she has been highly acclaimed as Mimi (*La bohème*) at the NISSAY OPERA, Flora (Orefice's *Chopin*) at the Tokyo Bunka Kaikan's Music Program TOKYO, and the title role of *Tosca* at the Tokyo Bunka Kaikan's Opera BOX. A member of the Fujiwara Opera, she has

A

12 & 13, SEPT. 2026

received high praise playing various roles for the company, including *Madama Butterfly*, Countess (*Le nozze di Figaro*), Marguerite (*Faust*) and Violetta (*La Traviata*).

An active concert singer as well, she has regularly sung the soprano solo for Beethoven's Symphony No. 9, alongside orchestras including the Tokyo, the Kanagawa and the Nagoya Philharmonic Orchestras.

She graduated from the Tokyo University of the Arts and completed the Suntory Hall Opera Academy's Advanced Course. Among those who trained her are Kazuko Nakahata, Tasuku Naono, Mara Zampieri and Giuseppe Sabbatini. This is her first time performing with the NHK Symphony Orchestra.

Asami Fujii, mezzo soprano



Japanese mezzo soprano Asami Fujii studied singing in Pesaro, Italy after completing her master's course at the Senzoku Gakuen College of Music and honing her vocal skills at the Opera Studio of the New National Theatre, Tokyo. Also trained in Nice, France and Amsterdam, the Netherlands, she won special awards at the Benvenuto Franci International Competition for Opera Singers and the International Competition of Teatro Besostri di Mede, Italy.

The years 2026 and 2027 see her singing *Mercédès* (*Carmen*) under Myung-Whun Chung, Beethoven's Symphony No. 9 under Eiji Oue, Donna Elvira (*Don Giovanni*) for the NISSAY OPERA and Annina (*Der Rosenkavalier*) for the New National Theatre, Tokyo.

A member of the Tokyo Nikikai, she made her debut with the opera company in 2019 garnering widespread acclaim as Suzuki in Amon Miyamoto's production of *Madama Butterfly*. The company has since entrusted her with major roles including The Nurse (*Die Frau ohne Schatten*) and Flora (*La traviata*).

On concert stages, she has served as a soloist for Beethoven's Symphony No. 9 (under the baton of Seiji Ozawa at the Seiji Ozawa Matsumoto Festival 2015), Mozart's *Requiem*, Dvořák's *Requiem* and Mass in D major, Vivaldi's *Gloria* and others. This is her first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

Tatsundo Ito, tenor



Japanese tenor Tatsundo Ito has been active in the field of opera. A member of the Tokyo Nikikai, he made his highly-praised debut with the company in 2016 as Brighella in *Ariadne auf Naxos* conducted by Simone Young and directed by Karoline Gruber. This was followed by his appearances with the company as roles including Parsifal (with Sebastian Weigle conducting the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra),

The Emperor (*Die Frau ohne Schatten*) and Count Vaudémont (*Jolante and the Nutcracker*). In 2025, he reunited with Sebastian Weigle in Tokyo as Andres in *Wozzeck* (concert version).

He is also a frequent guest of other companies including the New National Theatre, Tokyo

which has seen him as Daland's steersman (*Der fliegende Holländer*) under Marc Albrecht and Alfred (*Die Fledermaus*) under Patrick Hahn, among others. Besides Beethoven's Symphony No. 9, his concert repertoire as a soloist includes Bach's *Johannes-Passion*, Händel's *Messiah*, and Orff's *Carmina Burana*.

He polished his vocal abilities in Berlin in 2016, after completing his master's course at the Tokyo University of the Arts and further studying at the Opera Studio of the New National Theatre, Tokyo. Among those who trained him are Tasuku Naono, Yasuko Takemura and Noriko Igarashi. This is his NHK Symphony Orchestra debut.

Hirotaka Kato, bass



Japanese bass Hirotaka Kato is highly acclaimed for his voice with a deep, noble timbre. A graduate of the Tokyo University of the Arts, he completed his master's course at the Johns Hopkins University Peabody Institute and his diploma program at the Indiana University Jacobs School of Music. While studying in the United States, he was an active opera singer and participated in the Aspen Music Festival for two consecutive years.

A member of the Tokyo Nikikai, he made his debut with the company as Il Grande Inquisitore in *Don Carlo* conducted by Gabriele Ferro and directed by David McVicar. For the company, he has since sung a variety of roles including Kaspar in *Der Freischütz* (directed by Peter Konwitschny) and Gurnemanz in *Parsifal* (with Sebastian Weigle conducting the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra). While performing for many other operatic companies and projects in the country, he sang Banco (*Macbeth*, concert style) as part of Riccardo Muti's Italian Opera Academy in Tokyo 2021.

He is also a member of the Bach Collegium Japan founded by Masaaki Suzuki, and has been in high demand as a concert soloist singing most recently Mahler's *Symphonie der Tau- send* under Kahchun Wong. This is his NHK Symphony Orchestra debut.

Eri Niiyama, organ



Japanese organist Eri Niiyama is an organist of the ACT CITY Hamamatsu Hall in Shizuoka. She served as a vice-organist of the Tokyo Metropolitan Theatre for three decades until March 2023.

She graduated from the Department of Instrumental Music (Organ Performance) at the Tokyo University of the Arts where she completed her master's course as well. In 1983, she won the Second Prize at the 3rd Japan Organ Competition organized by the Japan Association of Organists. She devoted herself to further study at the Conservatoire à Rayonnement Régional de Lille in France from which she graduated as a top student earning the Premier Prix (first prize) by a unanimous decision of the jury. She also gained opportunities to hone her performance skills at international academies especially held in Belgium, Spain and southern France.

In addition to giving organ recitals as well as collaborating with choirs and ensembles, she has frequently performed with and inside orchestras. Currently, she is a member of the Japan Association of Organists.

New National Theatre Chorus, chorus

The New National Theatre Chorus began in April 1998, as an integral part of the theatre which opened in Tokyo the previous year as Japan's only national theatre dedicated to opera, ballet, dance, and drama. Comprising over 100 male and female singers chosen in an open audition, the chorus continually expands its repertoire through the theatre's diverse operatic productions. For its high-level vocal and acting ability, exceptional ensemble skills and powerful voice, it has earned high acclaim from not only media but also fellow performers, conductors and stage directors.

Outside its base, the chorus has worked with major Japanese orchestras as well as visiting opera companies and orchestras, such as the Royal Concertgebouw Orchestra under Mariss Jansons, the Mariinsky Theatre Orchestra under Valery Gergiev, the Orchestra and Chorus of the Teatro Regio di Torino under Gianandrea Nosedà, the Berliner Philharmoniker under Simon Rattle, and The Cleveland Orchestra under Franz Welser-Möst.

The chorus has built a great relationship with the NHK Symphony Orchestra, particularly singing Mahler's *Symphonie der Tausend* for the orchestra's landmark 2000th subscription concerts under Fabio Luisi in 2023. Most recently, the group joined the orchestra led by Leonard Slatkin for Beethoven's Symphony No. 9 in December 2025.

Program Note

Franz Schmidt (1874–1939)

***Das Buch mit sieben Siegeln*, oratorio** **(*The Book with Seven Seals*)**

Austro-Hungarian musician Franz Schmidt wore many hats as a composer, cellist, pianist, organist and conductor. He was a cello player in the Vienna Court Opera and Vienna Philharmonic Orchestra working often under the baton of Gustav Mahler (1860–1911). It seems that Mahler's daring, late-Romantic-style symphonies—let alone progressive works by Arnold Schönberg (1874–1951)—didn't particularly inspire Schmidt as a composer. He instead had deep respect for traditional Austro-German Classicism and Romanticism, relying on the conventional tonal language. Partly due to these moderate stances, Schmidt's compositions have been underestimated, although he was highly ingenious without being a mere copy of his predecessors.

Written in 1935–37 in Schmidt's final years while his health was declining, the oratorio *Das Buch mit sieben Siegeln* (*The Book with Seven Seals*) is considered the culmination of

his career. The 1938 premiere took place in Vienna in celebration of the 125th anniversary of the Gesellschaft der Musikfreunde in Wien (Wiener Musikverein). This monumental piece for vocal soloists, mixed chorus, organ and orchestra is a setting of the German text consisting of passages selected by the composer from *Die Offenbarung des Johannes* (*The Revelation of Saint John* or *The Apocalypse*), the last book of the New Testament.

Like the Evangelists in J. S. Bach's *Passions*, this oratorio has Johannes (Saint John, tenor) advance his prophetic story of the destructive end of this world, the Last Judgment and the ultimate fulfillment of salvation. Another key role is the Voice of God (bass) whose hand has a book with seven seals. The Lamb of God is chosen to loosen them one by one revealing God's end-time plan.

The oratorio's **Prologue (Prologue in Heaven)** immediately resounds the important C–D–G–F motif seven times. Besides Johannes and the Voice of God, the four beasts (vocal quartet) and the twenty-four elders (male chorus) praising God are heard, before the Lamb receives the book.

Opened by the organ solo, **Part 1** lets the Lamb undo the first six seals. The musical highlights include a conflict between those who glorify slaughter (male chorus) and those who frighten (female chorus), a mother and daughter suffering from hunger (soprano/alto duet), and a series of catastrophes with terrified people screaming "The ground is shaking! (...) The forest is burning! (...) The stars are falling! (...) The day of wrath!" (chorus).

Following the ominous organ solo, **Part 2** depicts a silence in heaven brought about by the opening of the seventh seal. Johannes narrates a war against a red dragon in heaven, then trombones suggest seven angels begin to blow their trumpets in turn cueing apocalyptic events on the earth. When the seventh trumpet sounds triumphantly (on a trumpet and trombones), loud voices are heard: "Now the kingdoms of this world become the kingdoms of God! He will reign forever!" (chorus). After the Voice of God speaks, Part 2 reaches its peak with a joyful Hallelujah chorus glorifying Him. The closing part first gives thanks to "Almighty God, who is now and was before" with male voices in the plainchant style. The music from Prologue is recalled next, before Johannes and the chorus sing "Amen!" to conclude the oratorio.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.2070

Suntory Hall

September

17(Thu) 7:00pm

18(Fri) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 56

violin

Augustin Hadelich

concertmaster

Sunao Goko

Carl Maria von Weber

***Oberon*, opera — Overture** [10']

Johannes Brahms

Violin Concerto D Major Op. 77

[40']

I Allegro non troppo

II Adagio

III Allegro giocoso, ma non troppo vivace

— intermission (20 minutes) —

Robert Schumann

Symphony No. 4 D Minor Op. 120

(Revised Version) [28']

I Ziemlich langsam — Lebhaft

II Romanze: Ziemlich langsam

III Scherzo: Lebhaft

IV Langsam — Lebhaft

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Augustin Hadelich, violin



Grammy Award winning violinist Augustin Hadelich is known for his phenomenal technique, insightful and persuasive interpretations, and ravishing tone. He has performed with all the major American orchestras as well as the Berliner Philharmoniker, Wiener Philharmoniker, Royal Concertgebouw Orchestra, Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, London Philharmonic, among others, alongside such renowned

conductors as Herbert Blomstedt, Neville Marriner, Fabio Luisi and Andris Nelsons.

A dual American-German citizen born in Italy to German parents, he studied with Joel Smirnoff at The Juilliard School. He rose to fame when he won the Gold Medal at the 2006 International Violin Competition of Indianapolis, before receiving the Avery Fisher Career

Grant in 2009.

Recent highlights include his collaborations with the Boston Symphony Orchestra (he served as its Artist in Residence in the 2025/26 season), Chicago Symphony Orchestra, New York Philharmonic, Gewandhausorchester Leipzig and the Staatskapelle Dresden, as well as his appearances at the Lucerne Festival and London's BBC Proms.

For his first reunion with the NHK Symphony Orchestra since February 2024, he will perform Brahms's Violin Concerto, the piece he played under Fabio Luisi in Europe and the United States alike.

He plays a 1744 violin by Giuseppe Guarneri del Gesù, known as 'Leduc, ex Szeryng', on loan from the Tarisio Trust.

Program Notes

Carl Maria von Weber (1786–1826)

***Oberon*, opera — Overture**

This year marks the 240th year since birth and 200th year since death for German composer Carl Maria von Weber. He is especially remembered today for raising German opera's status, in the times when Italian opera was predominant in Europe.

Weber cultivated a flair for theater from an early age. He moved from place to place with his father's touring theater company while studying music, and later held key positions such as music director at opera theaters in Prague and Dresden. Premiered in Berlin in 1821 to rave reviews, his German opera *Der Freischütz* (*The Free-Shooter*) established German Romanticism in opera and had a great influence on later generations including Richard Wagner (1813–1883).

Oberon (*Oberon, or The Elf King's Oath* 1826) was completed a few months before Weber's premature death. His only English-language opera, it was written at the request of the Covent Garden in London where his popularity was rising rapidly. He, having learned Czech in Prague and taken Italian lessons in Dresden, hurriedly mastered English to compose this fantastical and at-times exotic opera set in the medieval time. The overture immediately invites listeners to King Oberon's forest fairy realm with the calls of his magic horn. We will then hear some highlights of the opera, including the dramatic aria "Ocean, thou mighty monster" (Act 2) sung by the heroine Reiza (the daughter of the Caliph of Baghdad) after being shipwrecked in a violent storm and washed ashore.

Johannes Brahms (1833–1897)

Violin Concerto D Major Op. 77

Johannes Brahms is one of the most important composers of the German mid-Romantic era. Unlike above-mentioned Weber, he did not write operas, instead leaving a significant mark in the fields of instrumental and choral/vocal music.

B

17 & 18, SEPT. 2026

Born in Hamburg, Germany to a double bassist father, Brahms displayed precocious piano talent in his early childhood, before starting to compose around the age of 10. After his potential as a pianist and composer began to be regarded, he experienced several encounters in the early 1850s that were significant to his life. Particularly noteworthy among these were his meeting with Hungarian violinist Joseph Joachim (1831–1907) who became his close friend, and his introduction through Joachim to Robert Schumann. “Neue Bahnen (New Paths)” was the title given by composer and critic Schumann in his October 1853 article to extoll Brahms. In this sensational text, Schumann foretold that if the twenty-year-old pianist-composer were to wave his magic wand so the power of the orchestra lends him its force, further wonderful glimpses into the mysteries of the spirit world would be revealed.

Facing Beethoven’s symphonic legacies, however, self-critical Brahms completed his First Symphony only in 1876 at age 43. Following its successful premiere, he, freed from the immense pressure, wrote the sunny Second Symphony in D major in just a few months in 1877. The Violin Concerto, again in D major, was one of the several works Brahms set out to compose next during the summer of 1878 in Pörtschach, a scenic lakeside town in southern Austria.

Premiered in January 1879 by Joachim, this virtuosic Violin Concerto reflects various pieces of advice from him. Of a symphonic scoring, the opening sonata movement gives the magnificent first theme on violas, cellos and bassoons at the outset, before the soloist enters in D minor brimming with a dark passion. The slow middle movement is known for its unexpected start with an oboe taking the lead role over the silent violin solo, while the influence of Joachim’s native Hungary can be glimpsed in the rhythmical, energetic and danceable third movement.

Robert Schumann (1810–1856)

Symphony No. 4 D Minor Op. 120 (Revised Version)

Robert Schumann was born in Zwickau, Germany, the same year as Frédéric Chopin (1810–1849). Both inventive men played a leading role in musical Romanticism, albeit with different approaches. While the Polish composer’s works are mostly piano music, Schumann’s span virtually every musical genre and, whether instrumental or vocal, they are imbued with a free, Romantic spirit coupled with a deep literary sensibility inherited from his bookseller-author father. Incidentally, Schumann fostered the development of musical Romanticism also as a critic and brought to public attention the talents of Chopin and Brahms.

Venturing into a wide range of genres, Schumann tended to focus on composing in a specific genre for a certain period. The year 1840, for example, was his “Year of Song” where his stimulated creativity produced over 120 songs. The next year 1841, his “Symphonic Year”, was instead the phase when he worked intensively on orchestral works partly at his wife and pianist Clara’s suggestion. The Symphony No. 1 *Frühling (Spring)* heralded the beginning of this year, followed by *Ouverture, Scherzo und Finale (Overture, Scherzo and Finale)* for orchestra and *Phantasie (Fantasy)* for piano and orchestra (which was later

expanded into the Piano Concerto).

Schumann then gave his next symphony, written as his No. 2 but known today as the first version of No. 4, as a birthday present to Clara who turned 22 on September 13, 1841 (She had given birth to the couple's first child two weeks earlier). When this new piece was first performed three months later in Leipzig, it didn't attract much attention, partly because the program that day was overly long. On top of that, Clara and Franz Liszt—two of the star pianists of the time—performed a piano duet, which overshadowed the new symphony. Schumann didn't aim to publish it and put it away in a drawer for a decade. In December 1851 he extensively revised it in just one week, ten months after the premiere of the Symphony No. 3 *Rheinische* (*Rhenish*). This revised version, published as No. 4 during Schumann's lifetime, met with great acclaim at the 1853 premiere under his own baton in Düsseldorf, where he was the music director in charge of the municipal orchestra and choir.

The most distinctive feature of No. 4 is that the four movements are played continuously without a break. The utilization of shared musical materials across the movements ensures the unity of the work resembling a single-movement symphonic fantasy. The slow introduction of the opening movement introduces right away an essential wavering motif on violins, violas and bassoons, before the lively main section begins. The final movement has also a slow introduction. It gradually builds in intensity bolstered by majestic brass, which is followed by the heart-lifting main section and a faster joyous conclusion.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 61

PROGRAM

C

Concert No. 2071

NHK Hall

September

25 (Fri) 7:00pm

26 (Sat) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 56

concertmaster

Kota Nagahara

NHKSO 100th Anniversary:
Beethoven Symphony Cycle 1**Ludwig van Beethoven**
Symphony No. 1 C Major Op. 21

[28']

- I Adagio molto — Allegro con brio
- II Andante cantabile con moto
- III Menuetto: Allegro molto e vivace
- IV Finale: Adagio — Allegro molto e vivace

— intermission (20 minutes) —

Ludwig van Beethoven
Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, *Eroica* (*Heroic Symphony*) [50']

- I Allegro con brio
- II Marcia funebre: Adagio assai
- III Scherzo: Allegro vivace — Trio
- IV Finale: Allegro molto

- All performance durations are approximate.

Program Notes

Ludwig van Beethoven (1770–1827)**Symphony No. 1 C Major Op. 21**

This 2026/27 season of the NHK Symphony Orchestra, Tokyo (hereafter NHKSO) has invited its audience on a journey through all of Ludwig van Beethoven's nine symphonies. This cycle is to mark the 200th anniversary of the German composer's death and the 100-year milestone of the NHKSO since its 1926 foundation. In 1927, the newborn orchestra commemorated the 100th anniversary of Beethoven's death performing seven of his symphonies and three of his piano concertos. The NHKSO has since deepened its relationship with his great musical legacy, particularly through the full cycles of his symphonies in 1936–37 and in 1970.

Compared to Joseph Haydn (1732–1809) and Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)

who both left us a significant number of symphonies, Beethoven composed only a handful. Each of his nine symphonies are nevertheless monumental in their own way and represent watershed moments, not only in his career but also in music history. For many composers after Beethoven, writing the “first” symphony was a synonym with confronting a nemesis, not to mention Johannes Brahms (1833–1897) who spent over twenty years to complete his No. 1.

Beethoven wrote the Symphony No. 1 mostly in 1799 at age 29, after he had moved to Vienna in 1792 from his hometown Bonn. During these first seven years in Vienna—the city had mourned Mozart’s death since 1791—, Beethoven first made his name as a virtuoso pianist-composer and a peerless keyboard-improviser, while completing his composition studies under the city’s musical figures including Haydn. Meanwhile, the Viennese audience and music-loving aristocrats awaited Beethoven’s symphonies more and more eagerly to hold him in high regard as a thoroughly established composer. In other words, his Symphony No. 1 is not a student work from his youth but, instead, an ambitious one unveiled to the Viennese music scene only after he was fully prepared.

Beethoven’s Symphony No. 1 is molded into a conventional fast-slow-minuet-fast structure following Haydn and Mozart. However, it occasionally brings a touch of unexpectedness and inventiveness offering a glimpse of how eager Beethoven was to impress the Viennese. The most surprising thing is how the symphony opens, as the slow introduction doesn’t begin in C major, the home key, but with a dissonant chord (a dominant seventh of F major). On top of that, the establishment of C major is postponed until the main vivacious sonata section of the first movement starts. Full of contrasts and at a fast tempo, unexpectedly, the third minuet movement gives the impression of a scherzo. This foretells Beethoven’s Symphony No. 2 (1802), where he will replace the traditional courtly minuet movement with a lively scherzo for the first time in his symphonies. The orchestration also seemed to be unusual to the composer’s contemporaries. Indeed, a newspaper review following the 1800 premiere pointed out that the symphony sounded more like a wind ensemble than an orchestra owing to its heavy wind scoring.

Ludwig van Beethoven

Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, *Eroica* (*Heroic Symphony*)

Friend of liberty, Beethoven saw Napoleon Bonaparte as the embodiment of the French Revolution’s ideal. He originally composed Symphony No. 3 in honor of the First Consul of France. After the completion in 1804, however, the German composer was disappointed at the news of Napoleon declaring himself emperor, and famously erased the title “Bonaparte” as well as the dedication on the manuscript’s title-page. The symphony was eventually published under the title “*Sinfonia Eroica (Heroic Symphony)*,” Composed to Celebrate the Memory of a Great Man.” With regard to who is “a Great Man,” experts have mentioned various possibilities including Prince Louis Ferdinand of Prussia (1772–1806) who fought in the French Revolutionary Wars.

This colossal, unconventional work was a big step for Beethoven trying to break from the traditional Classical style established and developed by Haydn, Mozart and himself.

The first movement in E-flat major is an extended sonata with an exceptionally long development. The fleeting introduction lets the whole orchestra resound only twice the tonic chord of E-flat major. Immediately after that, the cellos sing the first theme, a simple broken chord, which will be elaborately developed through the entire movement. We then hear, in the place of a mellifluous movement, a grave funeral march in C minor.

Beethoven chose for the third movement a lively scherzo instead of a graceful minuet as he had already done in his Symphony No. 2. The trio (central) section with three horns evoking a hunting scene is a highlight. The truly heroic last movement is also unconventional as it is not a rondo but a set of variations on a theme. The theme given by the pizzicato low strings had been used previously in Beethoven's *Die Geschöpfe des Prometheus* (*The Creatures of Prometheus*) (1801), a ballet about the heroic Greek god who stole the fire from Zeus to give it to mankind, as well as in his *Variationen und Fuge für Klavier* (*Variations and Fugue for Piano*) op. 35 (1802) nicknamed *Eroica-Variationen* (*Eroica Variations*).

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 61

The Subscription Concerts Program 2026–27

2026
09

A	Concert No. 2069	NHKSO 100th Anniversary		Ordinary	Youth
	September 12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm	Franz Schmidt <i>Das Buch mit sieben Siegeln</i> , oratorio (<i>The Book with Seven Seals</i>) Fabio Luisi, conductor Michael Laurenz, tenor (Johannes) David Steffens, bass (Voice of God) Miho Sakoda, soprano Asami Fujii, mezzo soprano Tatsundo Ito, tenor Hirokata Kato, bass Eri Niiyama, organ New National Theatre Chorus, chorus Kyohei Tomihira, chorus master		S 15,000 A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	S 7,000 A 6,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
NHK Hall					
B	Concert No. 2070	Weber <i>Oberon</i> , opera – Overture Brahms Violin Concerto D Major Op. 77 Schumann Symphony No. 4 D Minor Op. 120 (Revised Version)		Ordinary	Youth
	September 17 (Thu) 7:00pm 18 (Fri) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Augustin Hadelich, violin		S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
Suntory Hall					
C	Concert No. 2071	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 1		Ordinary	Youth
	September 25 (Fri) 7:00pm 26 (Sat) 2:00pm	Beethoven Symphony No. 1 C Major Op. 21 Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, <i>Eroica</i> (<i>Heroic Symphony</i>) Fabio Luisi, conductor		S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500 E 3,300	S 6,000 A 5,000 B 3,600 C 3,250 D 1,900 E 1,600
NHK Hall					

2026
10

A	Concert No. 2072	Bruckner Symphony No. 5 B-flat Major		Ordinary Youth	
	October			S 15,000	S 7,000
	17 (Sat) 6:00pm			A 12,500	A 6,000
	18 (Sun) 2:00pm			B 10,000	B 5,000
				C 8,000	C 4,000
B		Matthias Bamert, conductor - Artist has been changed from initially scheduled Herbert Blomstedt.		D 6,500	D 3,000
				E 4,500	E 2,000
		There will be no subscription concerts of Program B in October due to special concerts.			
C	Concert No. 2073	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 2		Ordinary Youth	
	October			S 11,000	S 5,500
	23 (Fri) 7:00pm	Beethoven <i>Egmont</i> , incidental music Op. 84 – Overture		A 9,500	A 4,500
	24 (Sat) 2:00pm	Beethoven Symphony No. 8 F Major Op. 93		B 7,600	B 3,500
		Beethoven Symphony No. 5 C Minor Op. 67		C 6,000	C 2,800
				D 5,000	D 1,800
				E 3,000	E 1,400

2026
11

A	Concert No. 2074	Prokofiev Violin Concerto No. 1 D Major Op. 19 Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65			Ordinary	Youth
	November 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Mayuko Kamio, violin	NHK Hall	S 12,000	S 6,000	
				A 10,000	A 5,000	
				B 8,000	B 3,600	
				C 3,250	C 1,900	
D 5,500	D 1,900					
E 3,300	E 1,600					
B	Concert No. 2076	Rakhmaninov Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18 Tchaikovsky <i>The Nutcracker</i> , ballet Op. 71 (Selected by Tugan Sokhiev)			Ordinary	Youth
	November 19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Alexandre Kantorow, piano	Suntory Hall	S 12,000	S 6,000	
				A 10,000	A 5,000	
				B 8,000	B 4,000	
				C 3,250	C 3,250	
D 5,500	D 2,750					
C	Concert No. 2075	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 3 Beethoven <i>Coriolan</i> , overture Op. 62 Beethoven Symphony No. 2 D Major Op. 36 Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>			Ordinary	Youth
	November 13 (Fri) 7:00pm 14 (Sat) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor	NHK Hall	S 12,000	S 6,000	
				A 10,000	A 5,000	
				B 8,000	B 3,600	
				C 3,250	C 3,250	
D 5,500	D 1,900					
E 3,300	E 1,600					

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2026
12

A Concert No. **2077**
November
28 (Sat) 6:00pm
29 (Sun) 2:00pm
Program A of the December
subscription concerts will
be held in November.
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary
Falla *El sombrero de tres picos*, ballet suite No. 2
(*The Three-Cornered Hat*)
Ravel Piano Concerto G Major
Berlioz *Symphonie fantastique*, Op. 14 (*Fantastic Symphony*)
Charles Dutoit, conductor
Martha Argerich, piano

Ordinary	Youth
S 17,000	S 8,500
A 14,500	A 7,000
B 11,500	B 5,500
C 9,500	C 4,500
D 7,500	D 3,500
E 5,500	E 2,500

B Concert No. **2079**
December
10 (Thu) 7:00pm
11 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Mozart *Die Zauberflöte*, opera K. 620 – Overture (*The Magic Flute*)
Srnka *Smoke* for Cello and Orchestra
[NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / World Premiere]
Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, *Scottish*
Maxim Emelyanychev, conductor
Nicolas Altstaedt, cello

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2078**
December
4 (Fri) 7:00pm
5 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 4
Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60
Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92
Charles Dutoit, conductor
- Beethoven's Symphony No. 9 *Choral* is scheduled to be performed
at the "Beethoven '9th' Symphony Concert" at the end of 2026 (conductor: Marek Janowski).

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,800
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

2027
01

A Concert No. **2080**
January
16 (Sat) 6:00pm
17 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Mahler Symphony No. 9 D Major
Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

B

**There will be no subscription concerts of Program B
in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.**

C Concert No. **2081**
January
22 (Fri) 7:00pm
23 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 1
Sørensen *Evening Land* (2017)
Beethoven Piano Concerto No. 1 C Major Op. 15
Nielsen Symphony No. 6, *Sinfonia semplice*
Fabio Luisi, conductor
Alessandro Taverna, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,600
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

2027
02

A Concert No. **2082**
February
6 (Sat) 6:00pm
7 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Bach / Webern *Musikalisches Opfer*, BWV 1079 – *Ricercar à 6 voci*
(*The Musical Offering* – 6 Voice Fugue)
Mahler 5 *Lieder nach Texten von Friedrich Rückert*
(5 *Songs after Friedrich Rückert*)
Schönberg Chamber Symphony No. 2 Op. 38
Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, *Unvollendete*
(*Unfinished Symphony*)
Antonello Manacorda, conductor André Schuen, baritone

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B

**There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April,
May, and June due to renovation of Suntory Hall.**

C Concert No. **2083**
February
12 (Fri) 7:00pm
13 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 2
Schumann *Genoveva*, opera Op. 81 – Overture
Beethoven Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 19
Hisatada Otaka *Ashiya Otome*, symphonic poem Op. 9
Panufnik Symphony No. 2, *Sinfonia Elegiaca*
Tadaaki Otaka, conductor
Yunchan Lim, piano

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2027
04

A	Concert No. 2084	April 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm	NHK Hall	Mendelssohn Violin Concerto E Minor Op. 64 R. Strauss <i>Eine Alpensinfonie</i> Op. 64 (<i>An Alpine Symphony</i>)	Fabio Luisi, conductor James Ehnes, violin	Ordinary	Youth
						S 13,000 A 11,000 B 8,500 C 7,000 D 5,600 E 3,500	S 6,500 A 5,200 B 4,000 C 3,500 D 2,000 E 1,700

B There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C	Concert No. 2085	April 23 (Fri) 7:00pm 24 (Sat) 2:00pm	NHK Hall	The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 3 Dvořák <i>The Noon Witch</i> , symphonic poem Op. 108 Beethoven Piano Concerto No. 3 C Minor Op. 37 Unsuk Chin <i>Subito con forza</i> Shostakovich Symphony No. 9 E-flat Major Op. 70	Elim Chan, conductor Alice Sara Ott, piano	Ordinary	Youth
						S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

2027
05

A	Concert No. 2086	May 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm	NHK Hall	Grieg Piano Concerto A Minor Op. 16 Stenhammar Symphony No. 2 G Minor Op. 34	Paavo Järvi, conductor Denis Kozhukhin, piano	Ordinary	Youth
						S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500 E 3,300	S 6,000 A 5,000 B 3,600 C 3,250 D 1,900 E 1,600

B There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C	Concert No. 2087	May 21 (Fri) 7:00pm 22 (Sat) 2:00pm	NHK Hall	The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 4 Lully <i>Le bourgeois gentilhomme</i> , ballet (<i>The Bourgeois Gentleman</i> /Excerpts) Beethoven Piano Concerto No. 4 G Major Op. 58 R. Strauss <i>Der Bürger als Edelmann</i> , suite Op. 60 (<i>The Bourgeois Gentleman</i>)	Kent Nagano, conductor Till Fellner, piano	Ordinary	Youth
						S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400

2027
06

A	Concert No. 2088	June 5 (Sat) 6:00pm 6 (Sun) 2:00pm	NHK Hall	Mozart Symphony No. 35 D Major K. 385, <i>Haffner</i> Bruckner Symphony No. 3 D Minor, <i>Wagner-Symphonie</i> (Third Version / 1889)	Tugan Sokhiev, conductor	Ordinary	Youth
						S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500 E 3,300	S 6,000 A 5,000 B 3,600 C 3,250 D 1,900 E 1,600

B There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C	Concert No. 2089	June 18 (Fri) 7:00pm 19 (Sat) 2:00pm	NHK Hall	The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 5 Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, <i>Emperor</i> R. Strauss <i>Ein Heldenleben</i> , symphonic poem Op. 40 (<i>A Hero's Life</i>)	Thomas Guggeis, conductor Kirill Gerstein, piano	Ordinary	Youth
						S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400 (tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ



「N響100年」
記念ページは
こちらから



N響ホームページ

「N響100年」 記念ページ

<https://www.nhkso.or.jp/100th/>

N響100年を記念するおまな公演・事業や首席指揮者ファビオ・ルイーゼのメッセージが紹介されているほか、N響のこれまでの歩みをまとめた年表や読み物をご覧ください。また「演奏記録アーカイブ／資料アーカイブ」では、N響100年の全演奏会の記録、そしてN響が所蔵する歴史的資料の目録の一部をデータベースとして公開。検索にも対応します。

WEB連載

NHK交響楽団の あゆみ

1945—2026 岩野裕一

THE HISTORY OF
NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

WEB連載
「NHK交響楽団のあゆみ」は
こちらから



N響100年を記念した連載企画「NHK交響楽団のあゆみ」をホームページでご覧になれます。執筆は、「王道楽土の交響楽」「日本のピアノ100年」などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html

伝えるチカラ



- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援!

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めています。

ステラ
net



NHK財団の最新情報はこちらから

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「N響ほっとコンサート」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催。また折にふれて全国各地の小学校、中学校、高校を訪れてコンサートや指導を行い、近年はリモート技術を活用したクリニックなども開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：中川紗優梨

クラリネット：白井宏典 打楽器：菊池幸太郎

(2026年9月1日現在)

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、クラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしてい

ます。幼稚園、コミュニティ施設などで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に着した活動を行っています。最近では各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えていきます。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される「NHKのど自慢」では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への外国人留学生招待にも取り組んでいます。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN 関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等	理事長	根本拓也									
	常務理事	三溝敬志									
	理事	相川直樹	内永ゆか子	小宮 暁	杉山博孝	銭谷真美	田辺雅泰	團 宏明	毛利 衛		
	監事	山崎英一	濱村和則								
	評議員	井上樹彦	江頭敏明	樺山絃一	神田真介	菅原 直	清野 智	田中宏暁	檀 ふみ		
		坪井節子	伯野卓彦	前田昭雄	三浦 惺	渡邊 修					

事務局	演奏制作部			企画プロモーション部		経営管理部		特別主幹	芸術主幹
	岩渕一真	内山弥生	木村英代	川瀬直人	黒川大亮	野村 歩	吉田麻子	中野谷公一	西川彰一
	宮崎将一郎	徳永匡哉	小倉康平	猪股正幸	三浦七葉子	浅田武志	杉山真知子	技術主幹	
	石井 康	高橋 啓		吉賀亜希	目黒重治	長津紗弥			
	沖 あかね	上原 静		宮崎則匡			山本能寛		
	尾澤 勉								

団友	公門俊之	三原征洋	オーボエ	トランペット	百瀬和紀	事務局
	齋藤真知亜	村山 弘				
名誉コンサート マスター	酒井敏彦	山田雄司	青山聖樹	井川明彦	ピアノ	稲川 洋
	清水謙二		北島 章	米馬 賢		入江哲之
	鈴木弘一	チェロ	浜 道晃	関山幸弘	本荘玲子	金沢 孝
	田渕 彰		茂木大輔	津堅直弘		小林文行
堀 正文	田中 裕	岩井雅音		栃本浩規	理事長	清水永一郎
コンサートマスター	鶴我裕子	木越 洋	クラリネット	福井 功		高木かおり
	中瀬裕道	齋藤鶴吉		佛坂咲千生	曽我 健	中馬 究
	永峰高志	三戸正秀	磯部周平		田畑和宏	出口修平
	堀江 悟	銅銀久弥	加藤明久		野島直樹	利光敬司
	前澤 均	丹羽経彦	横川晴晃	トロンボーン	日向英実	芳賀由明
海野義雄	宮里親弘	平野秀清		伊藤 清	木田幸紀	望戸一男
川上久雄	武藤伸二	藤本英雄	ファゴット	神谷 敏	森 茂雄	諸岡 淳
篠崎史紀	堀 伝	茂木新緑		栗田雅勝	今井 環	吉田博志
徳永二男	村上和邦		岡崎耕治	三輪純生	根本佳則	渡辺 克
堀 伝	横山俊朗		霧生吉秀	吉川武典	今村啓一	渡辺克己
山口裕之	蓬田清重	コントラバス	菅原恵子			
ヴァイオリン						
板橋 健	ヴィオラ	井戸田善之		チューバ	役員	
梅澤美保子		志賀信雄	ホルン			
大澤 浄	大久保淑人	佐川裕昭		多戸幾久三	加納民夫	
大林修子	小野 聡	新納益夫	大野良雄	原田元吉	唐木田信也	
大松八路	小野富士		中島大之		斉藤 滋	
梯 孝則	梯 孝則	フルート	樋口哲生		原 武	
川上朋子	菅沼準二		松崎 裕	打楽器	山崎大樹	
木全利行	店村眞積	菅原 潤	山田桂三	有賀誠門		
窪田茂夫	田渕雅子	細川順三		岡田知之		
黒柳紀明	中竹英昭	宮本明恭		瀬戸川 正		

フィルハーモニー2026年9月号 | 第98巻 第6号
2026年9月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一)財NHK財団
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず



ご存知ですか？

海外出張、海外旅行を計画されている方へ

海外で、ニュース・情報番組の
同時配信と見逃し配信が、
無料で視聴可能！

*視聴可能は毎日5時間程度



海外にいる日本人のみなさまの安全・安心のため、
ニュース・情報番組は、NHKのウェブサイトで、無料で
同時配信と見逃し配信を行っています。

特に見逃し配信は、海外でも時差を気にせず、NHKニュース
をご覧ください。

視聴方法
はこちら▶▶



*日本国内では視聴することができません。
海外にいらっしゃる間に視聴できます。

海外にお住まいの方には

NHKのニュースや情報番組、ドラマ、子ども番組、
音楽番組などを24時間編成で有料で放送
しています。世界のおよそ80の国・地域の
約2,400万世帯以上で視聴できます。

[エリア][国/地域]の順に選択の上、お住い
の地域で見られる放送事業者を検索して
ください。



利用できるサービスを探す

お住まいの国/地域を選択

エリア ▼

国 ▼

NHK WORLD-JAPAN is the international
service of Japan's public media organization.
It provides a global audience with information
about Japan and Asia on TV, radio, and
online. Content is available in English and
other languages.



Disaster and safety-related information is updated instantly,
via emergency alert screens on the website and push notifications
on the app.



(iPhone, Android)

Get real-time alerts from our app.

■ Earthquake, Tsunami, and Weather Emergency Warnings
Available in: English, Chinese, French, Hindi, Indonesian,
Korean, Portuguese, Russian, Spanish, Thai, Vietnamese

■ Breaking News (English)

▲Download here. ※App settings are required.

いつでも どこでも あなたのそばに

NHK ONE



番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などの情報を
テレビ※やスマホ・タブレット、パソコンで

※インターネット接続に対応したテレビ

WEBサイト (HP)



NHK ONE



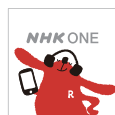
NHKプラス



NHK ONE
ニュース・防災



NHK ONE
for School



NHK ONE
らじる★らじる



NHK ゴガク
語学講座

世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません
((NHK ONE らじる★らじる)など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です)

テレビでもスマホでも



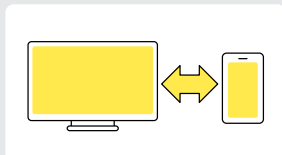
防災機能がさらに充実



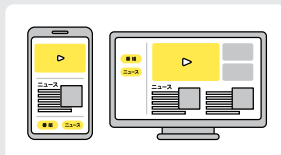
安心して子どもと一緒に



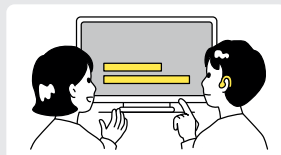
プロフィール設定・デバイス連携



ドラマも最新ニュース記事も



生放送もぴったり字幕で

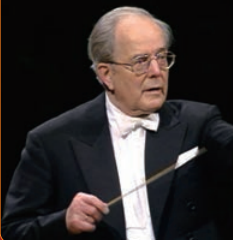


ドラマ、ドキュメンタリーなど名作20,000本以上配信中！

NHK オンデマンド

有料動画
配信サービス

NHK交響楽団の名演を
いつでも、どこでも、何度でも



シューマン
交響曲 第2番 ほか
サヴァリッシュ
指揮
(1995年11月 収録)



ベートーベン
交響曲 第7番 ほか
マタチッチ
指揮
(1984年3月 収録)



ベートーベン
交響曲 第6番「田園」
ほか
ルイージ
指揮
(2023年5月 収録)



チャイコフスキー
交響曲 第6番「悲愴」
ほか
ブロムシュテット
指揮
(2014年9月 収録)



ドボルザーク
交響曲 第8番 ほか
スウィトナー
指揮
(1989年11月 収録)



ワーグナー
歌劇
「さまよえるオランダ人」序曲
ほか
シュタイン
指揮
(1983年3月 収録)

懐かしの「N響アワー」から「クラシック音楽館」まで
世界的マエストロによる演奏を **毎月配信中!**

まるごと
見放題パック
月額
990円 税込

NHKオンデマンドコールセンター
☎ **0570-083333**
携帯電話・IP電話 03-6743-6777

受付時間
9:30
~
22:00

番組ラインアップなどの詳細は
公式ウェブサイトでチェック!
<https://www.nhk-ondemand.jp>



9/15
発売

酒器の風景

『目の眼』10・11月号（紙版・デジタル版）



[協力：富小路やま岸]

音に浸ったあとは、美を愛でるひとときを



目の眼は 雑誌&ウェブで 骨董古美術の愉しみを伝えています

menomeonline.com

目の眼

音楽の友

ONGAKU NO TOMO

9月号



特集 創立100年記念

NHK交響楽団

— 伝統と進化、その使命



クラシック音楽メディアのポータルサイト

レコード芸術 The Record Geijutsu ONLINE



100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

100th創立100年特別企画

NHK交響楽団関連企画を展開中

創立100年特別企画「N響に登場した巨匠指揮者列伝」

(第1回は無料公開!)

関連書籍

MAROの“偏愛”名曲案内 〜フォースと共に 篠崎史紀 著

交響録 N響で出会った名指揮者たち 茂木大輔 著

《アッキーにくらくら》セレクション 元N響クラリネット奏者のスケルツァンドな日々 加藤明久 著

巨匠指揮者列伝 名盤でたどる88人 [ア〜セ] / [タ〜ワ] 山崎浩太郎 著

斎藤秀雄 レジェンドになった教育家 音楽のなかに言葉が聞こえる 中丸美繪 著



ONGAKU NO TOMO SHA CORP

音楽之友社



2026/10/3(土)6:00pm
2026/10/4(日)2:00pm

October
3 (Sat) 6:00pm
4 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

NHKホール

マーラー／交響曲 第2番 ハ短調「復活」

Mahler Symphony No. 2 C Minor Auferstehung (Resurrection)

主催：NHK／NHK交響楽団

特別支援：岩谷産業株式会社／三菱地所株式会社／株式会社みずほ銀行／公益財団法人渋谷音楽会／
東日本旅客鉄道株式会社／NTT東日本株式会社／東京海上ホールディングス株式会社／株式会社ポケモン
特別協力：BMWジャパン／全日本空輸株式会社／ヤマハ株式会社／ぴあ株式会社

指揮：ファビオ・ルイーダ

Fabio Luisi, conductor

ソプラノ：イン・ファン

Ying Fang, soprano

メゾ・ソプラノ：タマラ・マムフォード

Tamara Mumford, mezzo soprano

合唱：新国立劇場合唱団

New National Theatre Chorus, chorus

合唱指揮：富平恭平

Kyohei Tomihira, chorus master

管弦楽：NHK 交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo



Ying Fang
©Dario Acosta



Tamara Mumford
©Fay Fox

N響100年記念 特別演奏会
NHKSO 100TH ANNIVERSARY
SPECIAL CONCERT:
MAHLER RESURRECTION

マーラー

復活

100th

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

写真：2025年4月、第2036回定期公演 ルイーダ指揮 マーラー（交響曲第3番）

お問い合わせ

N響ガイド：0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm(定休日：土・日・祝日)

※東京都内での主催公演開催日は曜日にかかわらず10:00am～開演時刻まで営業いたします。

※電話受付のみの営業となります。

※未成年者のご入場はお断りしています。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合のぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

nhkso.or.jp

Follow us on



Christoph Eschenbach

2026

10.30

Friday 7:00pm

交響曲 第2番 & 第4番

Symphonies Nos. 2 & 4

10.31

Saturday 4:00pm

交響曲 第3番 & 第1番

Symphonies Nos. 3 & 1

NHK交響楽団

©Jonas Holthaus

ブラームス交響曲 全曲演奏会

N響100年 巨匠と刻む受け継がれしレパートリー

指揮：クリストフ・エッセンバッハ



NHK Symphony Orchestra, Tokyo

東京芸術劇場 コンサートホール

Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall (池袋駅西口 徒歩2分) | 主催：NHK/NHK交響楽団

100th NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

「お問い合わせ」

N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm (営業日はNHKホームページをご覧ください)

Follow us on



出演者プロフィール・
公演詳細は
NHKホームページで公開中
nhkso.or.jp



※未就学児のご入場はお断りしています。※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。※公演に関する最新情報はNHKホームページでご確認ください。

かんぽ生命 presents

N響 第九

Special Concert

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

日本を愛し、N響を鍛えた巨匠「N響第九」で引退

バッハ／「高き天よりわれは来れり」によるカノン風変奏曲 BWV 769
Bach / Canonic Variations on Vom Himmel hoch, da komm ich her BWV 769

オルガン：勝山雅世

Masayo Katsuyama, organ

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏5

交響曲 第9番 二短調

作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, Choral

指揮：マレク・ヤノフスキ

Marek Janowski, conductor

ソプラノ：森谷真理 | メゾ・ソプラノ：杉山由紀

テノール：村上公太 | バス・バリトン：トマシュ・コニエツヌィ

合唱：東京オペラシンガーズ Tokyo Opera Singers, chorus

合唱指揮：富平恭平 Kyohei Tomihira, chorus master



Mari Moriya,
soprano



Yuki Sugiyama,
mezzo soprano



Kota Murakami,
tenor



Tomasz Konieczny,
bass-baritone

前売所

- WEBチケットN響.....nhkso.pia.jp
- N響ガイド.....0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター.....0570-55-0017
suntory.jp/HALL
- チケットぴあ.....pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス).....eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット.....l-tike.com/nhkso

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)



WEBチケット
N響

2026年12月23日(水)
7:00pm | サントリーホール

Wednesday, December 23, 2026 | Suntory Hall

一般：S ¥20,000 A ¥16,500 B ¥13,000 C ¥9,000

ユースチケット(29歳以下)：S ¥10,000 A ¥8,200 B ¥6,500 C ¥4,500

※全て税込価格

チケット発売開始：9月6日(日) 10:00am

N響定期会員先行発売日：9月1日(火) 10:00am

※定期会員は一般料金から10%割引

●ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。●N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

主催：NHK交響楽団

特別協賛：株式会社かんぽ生命保険



かんぽ生命

N響第9

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

指揮

マレク・ヤノフスキ

Marek Janowski,
conductor

日本を愛し、
N響を鍛えた巨匠
「N響第9」で引退

N響100年特別企画
ベートーヴェン交響曲全曲演奏 5

ベートーヴェン／交響曲 第9番
ニ短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, Choral

2026年

12/17(木) 7:00pm | 12/18(金) 7:00pm | 12/19(土) 2:00pm
12/20(日) 2:00pm | 12/22(火) 7:00pm*

NHKホール NHK Hall

*22日公演はNHK/NHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。
プログラムは他の日程と同一です。



ソプラノ: メゾ・ソプラノ: テノール: バス・バリトン:
森谷 真理 杉山 由紀 村上 太夫 トマシュ・
ゴニエチュニー

合唱: 東京オペラシンガーズ
合唱指揮: 富平 恭平

主催: NHK / NHK交響楽団

主催(22日): NHK / NHK厚生文化事業団

協賛: みずほ証券株式会社 / はごろもフーズ株式会社 / 株式会社明電舎

お問い合わせ

N響ガイド 0570-02-9502

(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

NHK厚生文化事業団: 03-3476-5955

(22日公演のみ、平日10:00am ~ 6:00pm)

チケット発売開始

9月6日(日) 10:00am

N響定期会員先行発売日: 9月1日(火) 10:00am

料金(税込)

一般 S ¥17,000 A ¥13,500 B ¥10,000 C ¥7,500 D ¥5,000

ユースチケット (29歳以下) S ¥8,500 A ¥6,750 B ¥5,000 C ¥3,750 D ¥2,500

※定期会員は一般料金から10%割引

前売所



WEBチケットN響 nhkso.pia.jp

N響ガイド 0570-02-9502

チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

e+(イープラス) eplus.p/nhkso

ローソンチケット l-tike.com/nhkso

●ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド(22日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。



ご近所のイワタニは、
世界のイワタニです。

イワタニは、世界からガスを運び
安全と安心のネットワークで、
カセットガスやLPガスなど
さまざまなカタチに変えて日本全国にお届け。
今日も見えないところで、
あなたの暮らしを支えます。



Iwatani

岩谷産業株式会社